

三菱電機 **ビル** 空調管理システム
集中コントローラ
G-150AD
GB-50AD
取扱説明書 (初期設定用 Web ブラウザ操作編)

もくじ	ページ
1 はじめに	2
1-1 本書の表記について	2
1-2 動作環境	2
1-3 統合ソフト (TG-2000) を利用している場合の注意点	2
2 パソコンの環境設定	3
2-1 パソコンの IP アドレスを設定する	3
2-2 Web ブラウザを設定する	5
2-3 Java 実行環境の設定をする	7
3 初期設定ブラウザへのログイン	8
3-1 G-150AD にログインする	8
4 初期設定	11
4-1 現在日時を設定する	11
4-2 本体の基本情報, 外部入力機能を設定する	12
4-3 操作グループを登録する	20
4-4 換気機器 (ロスナイ・加熱加湿付ロスナイ) の連動情報を設定する	22
4-5 操作ブロックを登録する	23
5 機能設定 1	24
5-1 異常メール通報, メール通信を行う	24
5-2 省エネ制御, ピークカット制御を行う	27
5-3 ET 制御設定を行う	33
5-4 アドバンスパワーセーブ設定を行う	34
5-5 サーモ OFF 時送風設定を行う	35
5-6 計測設定を行う	36
6 機能設定 2	40
6-1 リモコンの設定温度範囲を制限する	40
6-2 室外ユニットのナイトモード時間帯を設定する	41
6-3 自動冷暖切換え機能を利用する	42
7 機能設定 3	43
7-1 外気温連動制御を利用する	43
7-2 セットバック制御を利用する	44
7-3 連動制御を利用する	45
8 換気設定	52
8-1 24 時間換気を設定する	52
8-2 ナイトバースを設定する	53
9 ユーザー設定	55
10 オプション機能のライセンス登録	57

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき正しくお使いください。
この取扱説明書は大切に保管してください。

この製品は日本国内向けに設計されており、本紙に記載の内容は日本国内においてのみ有効です。

また、海外でのアフターサービスも受けかねますのでご了承ください。

This appliance is designed for use in Japan only and the contents in this document cannot be applied in any other country.

No servicing is available outside of Japan.

1 はじめに

三菱電機(株)製 [集中コントローラ G-150AD] , [集中コントローラ GB-50AD] は, LAN で接続されたパソコンの Web ブラウザから空調機の状態監視, 操作を行うことができます。

本書では, 集中コントローラ G-150AD・集中コントローラ GB-50AD の状態監視・操作を Web ブラウザから行う手順について説明します。

以降の説明では特に記載の無い限り, 集中コントローラ G-150AD・集中コントローラ GB-50AD のことを [G-150AD] と表記します。

※G-150AD をインターネット等の外部と接続するときは, VPN ルータ等の機器を接続し, セキュリティを必ず確保してください。

※GB-50AD には拡張コントローラ (PAC-YG50EC) を接続できません。

※GB-50AD の場合は, 拡張コントローラに係わる表示はされません。また, 設定もできません。

1-1 本書の表記について

- ・ボタン, フォルダ等にマウスのカーソルを合わせ, マウスの左ボタンを 1 回押して離す動作を [クリック] と表記しています。
- ・本書で使用している画面は, 特に記載の無い限り, Windows® XP, Internet Explorer 6.0 における画面となっております。

※Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

1-2 動作環境

Web ブラウザにて空調機の監視, 操作を行う場合, パソコンに下記環境が必要となります。

表 1-1 動作環境

項目	内容
CPU	Pentium 300MHz 以上
メモリ	64MByte 以上 (128MByte 以上推奨)
画面解像度	1024×768 以上 推奨
対応ブラウザ	Microsoft® Internet Explorer 6.0 Microsoft® Internet Explorer 7.0 Microsoft® Internet Explorer 8.0 Microsoft® Internet Explorer 9.0 Microsoft® Internet Explorer 10.0 ※Java® 実行環境(Oracle®社製Java Plug-in)が必要となります。 Oracle®社製Java Plug-in Ver.1.6.0_02~Ver.1.6.0_33, Ver.1.7.0_07,09,17で動作確認しています。 ※Oracle 社製Java Plug-in のバージョンは, コントロールパネル内の “Java” にて確認できます。 ※Oracle 社製Java Plug-inはお使いのオペレーティングシステムに適したものをインストールして下さい。Internet Explorer(64bit)をご使用の場合はJava Plug-in(64bit)をインストールして下さい。 ※Oracle 社製 Java Plug-in Ver.1.6.0_10 以降の場合, 「2-3 Java 実行環境の設定をする」を行なって下さい。
内蔵 LAN ポートまたは LAN カード	1 個 (100BASE-TX)
その他	マウスなどのポインティングデバイス

※Microsoft は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※Oracle と Java は米国 Oracle Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

1-3 統合ソフト(TG-2000)を利用している場合の注意点

統合ソフト (以下 TG-2000) が接続されているシステムの場合, TG-2000 と G-150AD の保持データが一致するよう, 設定および変更は TG-2000 から行ってください。

※微弱風量ありのロスナイを接続する場合, 週間スケジュールを 3~5 種類使用する場合は, TG-2000 Ver.6.39 以降を使用してください。

2 パソコンの環境設定

ここでは Web ブラウザで G-150AD の各種設定を行うためのパソコンの設定、および Web ブラウザの設定について説明します。

2-1 パソコンの IP アドレスを設定する

G-150AD に Web ブラウザで接続できるようにパソコンの IP アドレスを設定します。例えば G-150AD の IP アドレスが [192.168.1.1] の場合、パソコンには同一系統の IP アドレス（ [192.168.1.101] 等）を設定します。

なお、G-150AD を既設 LAN に接続している場合は、LAN 管理者の指定した IP アドレスを設定してください。

※G-150AD 専用 LAN の場合、G-150AD 本体の IP アドレスは [192.168.1.1] ～ [192.168.1.40]，G-150AD と接続するパソコンの IP アドレスは [192.168.1.101] ～ [192.168.1.150] の間で設定することを推奨しています。

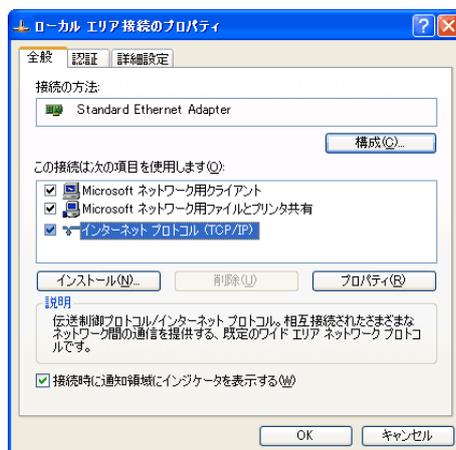
(1) [スタート]—[コントロールパネル]を選択してクリックし、コントロールパネルを開きます。



(2) コントロールパネル画面で、[ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックするとネットワーク接続画面が表示されますので、[ローカルエリア接続]をダブルクリックして[ローカルエリア接続状態]画面を開き、[プロパティ]をクリックします。



(3) [ローカルエリア接続のプロパティ]画面で[インターネットプロトコル]をクリックして選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。

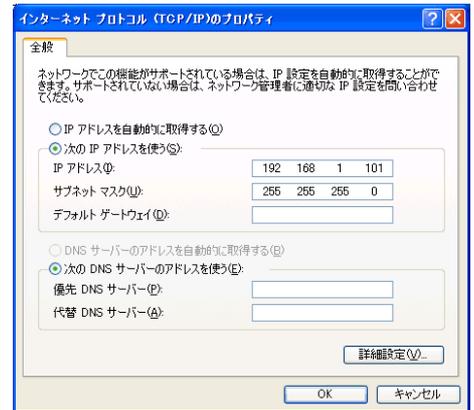


(4) IP アドレスの設定画面で、[次の IP アドレスを使う]をクリックして選択し、IP アドレス欄に設定したい IP アドレス（[192.168.1.101]等）を入力します。

サブネットマスクには通常[255.255.255.0]を設定します。

※設定する IP アドレス、サブネットマスクは LAN 管理者にご確認ください。

(5) [OK] ボタンをクリックしてこの画面を閉じ、他の開いた画面も閉じてネットワークの設定を完了します。



2-2 Web ブラウザを設定する

G-150AD に Web ブラウザで接続できるように Web ブラウザの設定を行います。

※設定例および画面例は Internet Explorer 6.0 を用いています。

2-2-1 インターネット接続環境の無い場合

インターネット環境の無いパソコンを、空調機の監視、操作用に用いる場合は、以下の手順で Web ブラウザの環境設定を行います。

- (1) Web ブラウザの[ツール]—[インターネットオプション]を選択してクリックします。



- (2) [インターネットオプション]画面で、[接続]タブをクリックして、接続設定画面に入ります。



- (3) ダイアルアップの設定部の [ダイヤルしない] を選択し、[OK] ボタンをクリックして設定を完了します。

2-2-2 ダイアルアップ接続環境がある場合

ダイアルアップにてインターネットと接続する環境のパソコンを、空調機の監視、操作用に用いる場合は、以下の手順で Web ブラウザの環境設定を行います。

この設定を行うと、インターネットへの接続が必要な場合にダイアルアップ接続するかどうかのメッセージが表示されます。インターネットへ接続したい場合はメッセージに従って接続してください。

- (1) Web ブラウザの[ツール]—[インターネットオプション]を選択してクリックします。



- (2) [インターネットオプション]画面で、[接続]タブをクリックして、接続設定画面に入ります。



- (3) ダイアルアップの設定部の [ネットワーク接続が存在しないときには、ダイヤルする] を選択し、[OK] ボタンをクリックして設定を完了します。

2-2-3 プロキシサーバー経由での接続環境がある場合(既設 LAN を利用する場合)

社内 LAN 等の既設 LAN に接続し、プロキシサーバー経由でインターネットと接続する環境のパソコンを、空調機の監視、操作用に用いる場合は、以下の手順で Web ブラウザの環境設定を行います。

この設定を行うと、インターネットと接続するときだけプロキシサーバー経由で接続されます。

- (1) Web ブラウザの[ツール]—[インターネットオプション]を選択してクリックします。



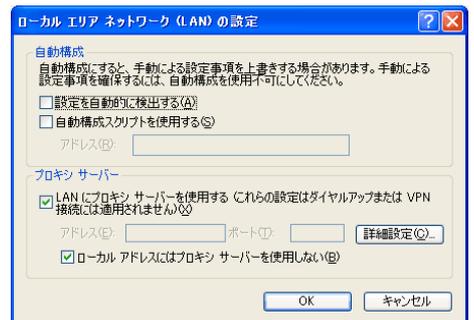
- (2) [インターネットオプション]画面で、[接続]タブをクリックして、接続設定画面に入ります。



- (3) ダイアログアップの設定部の [ダイヤルしない] を選択します。

- (4) [LAN の設定] ボタンをクリックして、LAN の設定画面に入ります。

- (5) LAN の設定画面で [ローカルアドレスにはプロキシサーバーを使用しない] を選択し、[詳細設定] ボタンをクリックします。



- (6) プロキシの設定画面の例外欄に、接続する G-150AD の IP アドレス (192.168.1.1 等) を入力し、[OK] ボタンをクリックしてこの画面を閉じ、他の開いた画面も閉じて設定を完了します。

なお、複数の G-150AD を接続する場合は、[192.168.1.1 ; 192.168.1.2]のように複数の IP アドレスを指定しても良いのですが、アスタリスク(*)を利用して[192.168.1.*]と指定することも可能です。



2-3 Java実行環境の設定をする

Java Plug-in バージョン 1.6.0_10 以降を使用している場合、以下の実行環境の設定を行ってください。
バージョン 1.6.0_09 以前の場合は設定は不要です。

※設定例および画面例は Java Plug-in バージョン 1.6.0_15 を用いています。

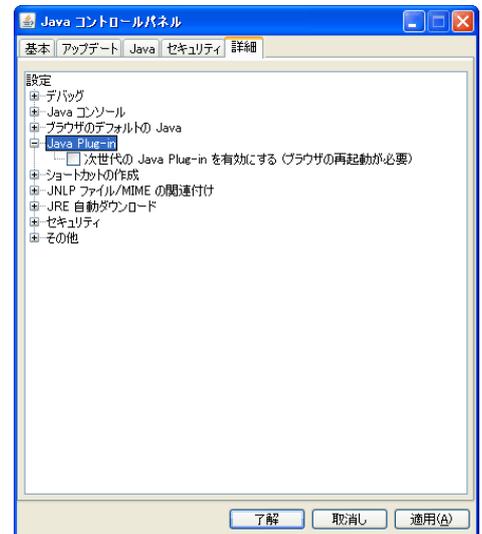
2-3-1 次世代の Java Plug-in を無効に設定する

(1) コントロールパネルの Java をダブルクリックし Java コントロールパネルを開きます。

(2) [Java コントロールパネル]画面で、[詳細]タブ-[Java Plug-in]を選択し、「次世代の Java Plug-in を有効にする（ブラウザの再起動が必要）」をクリックして、チェックを外してください。

※使用環境によりチェックが外せない場合があります。その場合は、
Java Plug-in バージョン 1.6.0_30 以降にバージョンアップしてください。

※Java のバージョンアップを行われた場合、再度、この設定を行ってください。



3 初期設定ブラウザへのログイン

ここでは、G-150AD との接続方法、および G-150AD の各種設定の方法について説明します。

※停電等で G-150AD が再起動した場合は、本体の画面が通常操作画面になってから Web ブラウザでアクセスしてください(通常画面が表示されるまで数分かかります)。再起動の途中でアクセスすると、最新のデータが表示されない、通信ができない等の現象が発生する場合があります。

※G-150AD の IP アドレスの初期値は 192.168.1.1 となります(工場出荷時)

3-1 G-150AD にログインする

3-1-1 G-150AD にログインする

- (1) Web ブラウザのアドレス欄に以下の Web ページアドレスを入力し、キーボードの[Enter](リターン)キーを押すと、ログイン画面が表示されます。

http://[G-150AD の IP アドレス]/g-50/administrator.html

※例えば G-150AD の IP アドレスが[192.168.1.1]の場合、Web ページアドレスは、http://192.168.1.1/g-50/administrator.html となります。

※ログイン画面が表示されない場合、下記の手順で一時ファイルを削除していただくことで解決する場合があります。

インターネットエクスプローラー

「ツール」→「インターネットオプション」→「全般」タブ→「インターネット一時ファイル」→「ファイルの削除」により、一時ファイルを削除してください。

Java

「コントロールパネル」→「Java」をクリック→「Java コントロールパネル」→「基本」タブ→「インターネット一時ファイル」→「設定」→「ファイルの削除」により、一時ファイルを削除してください。

- (2) 次回から簡単に接続できるよう、ブラウザの[お気に入り]-[お気に入りに追加]を選択し、お気に入りに追加を行います。一度お気に入りに登録しておくと、次回からはお気に入りのメニューから選択するだけで G-150AD の画面が表示されますので、(1)のアドレスを入力する必要がなくなります。



- (3) ログイン画面でユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックすると、G-150AD の設定画面へと移ります。各種設定については、次ページ以降で操作方法を説明していきます。メンテナンスユーザー用、管理者用のユーザー名、パスワードの初期値、利用可能機能は以下のようになります。

対象ユーザー	ユーザー名 初期値	パスワード 初期値	利用可能な機能	
メンテナンスユーザー	initial	init	初期設定	現在日時設定、基本システム、グループ設定、連動ロスナイ設定、ブロック設定
			機能設定 1	メール設定、ピークカット設定、ET 制御設定、アドバンストパワーセーブ設定、サーモ OFF 時送風設定、計測設定
			機能設定 2	設定温度範囲制限、ナイトモードスケジュールオートチェンジオーバー
			機能設定 3	外気温連動制御、セットバック制御、連動制御
			換気設定	24 時間換気設定、ナイトパーシ設定
ユーザー設定	ユーザー設定			
管理者ユーザー	administrator	admin	上記のうち、ユーザー設定画面にて許可された項目	

※管理者ユーザー名、パスワードは、管理者用 Web の管理者ユーザーと同じです。

※メンテナンスユーザーは、管理者ユーザーが通常の業務に必要な項目のみ(グループ名称設定等)利用可能とすることが可能です。

※管理者ユーザー以外の方が設定変更を行わないよう、ユーザー名、パスワードを初期値から変更して運用することをお奨めします。

※Web ページは、利用しているパソコンと同一の言語にて表示されますが、下記 Web ページアドレスを入力することにより、他の言語で Web ページを表示することも可能です。

イタリア語	: http://[G-150AD の IP アドレス]/g-50/it/administrator.html
英語	: http://[G-150AD の IP アドレス]/g-50/en/administrator.html
スペイン語	: http://[G-150AD の IP アドレス]/g-50/es/administrator.html
中国語	: http://[G-150AD の IP アドレス]/g-50/zh/administrator.html
ドイツ語	: http://[G-150AD の IP アドレス]/g-50/de/administrator.html
日本語	: http://[G-150AD の IP アドレス]/g-50/ja/administrator.html
フランス語	: http://[G-150AD の IP アドレス]/g-50/fr/administrator.html
ポルトガル語	: http://[G-150AD の IP アドレス]/g-50/pt/administrator.html
ロシア語	: http://[G-150AD の IP アドレス]/g-50/ru/administrator.html

3-1-2 通信データを暗号化して G-150AD にログインする

本機は HTTPS (SSL) 方式を利用して通信データを暗号化することができます。

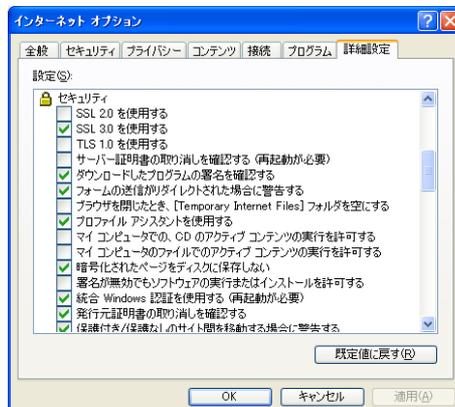
不特定多数のユーザーが接続された LAN に本機を接続する場合は、以下の設定を行って暗号化された Web ページにて監視、制御を行うことを推奨いたします。

※HTTPS による暗号化通信はパソコンの OS や Java のバージョン等により正常に接続できない場合があります。接続できない場合は前項の HTTP 接続にて監視、制御を行ってください。

(1) Web ブラウザの [ツール] - [インターネットオプション] - [詳細設定] ページで下記設定を行います。

項目	設定内容
SSL 2.0 を使用する	チェックを外す
SSL 3.0 を使用する	チェックする
TLS 1.0 を使用する	チェックを外す
暗号化されたページをディスクに保存しない	チェックする

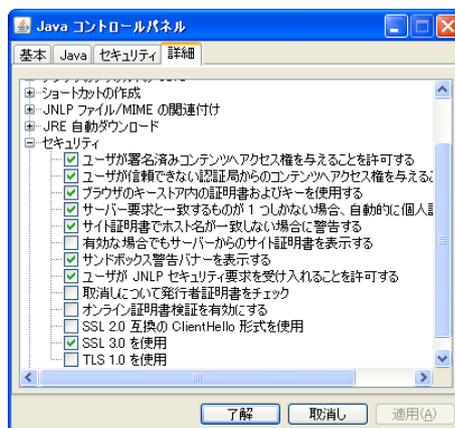
※Web ブラウザのバージョンにより設定項目名称が異なる場合があります。



(2) コントロールパネルの [Java] を開き、[詳細] ページの [セキュリティ] 項で下記設定を行います。

項目	設定内容
SSL 2.0 互換の Client Hello 形式を使用	チェックを外す
SSL 3.0 を使用	チェックする
TLS 1.0 を使用	チェックを外す

※Java のバージョンにより設定項目名称が異なる場合があります。



(3) Web ブラウザのアドレス欄の先頭部分を [https] として Web ページアドレスを入力し、キーボードの [Enter] (リターン) キーを押します。

**https://[G-150AD の IP アドレス]/g-50
/administrator.html**

※例えば G-150AD の IP アドレスが [192.168.1.1] の場合、Web ページアドレスは、https://192.168.1.1/g-50/administrator.html となります。



次項以降の注記に記載されたセキュリティ警告の解除を行っている場合は、暗号化通信が開始され、ログイン画面が表示されます。

セキュリティ警告の解除を行っていない場合は、次項以降の手順に従って、接続を行います。

- (4) セキュリティの警告メッセージの表示解除を行っていない場合、Web ページアドレスを入力後、ブラウザにて処理を続行していかどうかのセキュリティの警告メッセージが表示されます。この警告メッセージは本機が自己認証方式を採用しているために表示されるものですので、[はい]を選択して処理を続行します。

※ブラウザを開くたびに表示されるセキュリティの警告メッセージを非表示にするためには、

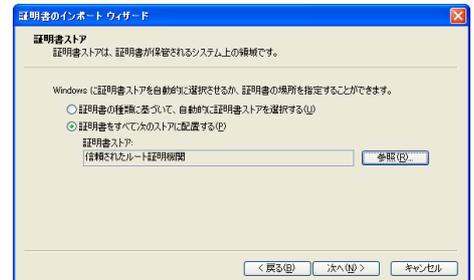
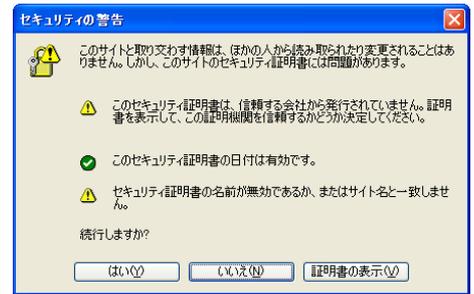
- ・ 証明書の登録
- ・ Web ブラウザのオプション設定

を行います。

証明書を登録するにはセキュリティ警告画面で[証明書の表示]ボタンをクリックして証明書を表示し、[証明書のインストール]ボタンをクリックして、証明書のインポートウィザードに[信頼されたルート証明機関]として登録します。

Web ブラウザでは、[ツール]—[インターネットオプション]—[詳細設定]ページで下記設定を行います。

項目	設定内容
無効なサイト証明書について警告する	チェックを外す



- (5) (4)で処理を続行すると、Java のセキュリティ警告メッセージが表示されますが、ここでも[はい]を選択して処理を続行します。

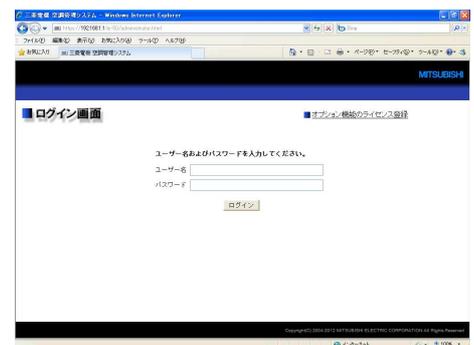
※ブラウザを開くたびに表示されるセキュリティの警告メッセージを非表示にするためには、[この発行者からのコンテンツを常に信頼します]をチェックして[はい]をクリックします。なお、[この発行者からのコンテンツを常に信頼します]をチェックして[はい]をクリックした場合は、証明書登録内容を反映させるために、ブラウザの再起動が必要となることがあります。

※右の画面が表示されず、正常に接続できない場合は、Java に証明書を登録する必要があります。(4)で [証明書の表示] ボタンをクリックして証明書を表示し、[証明書]ページの[ファイルにコピー]ボタンをクリックして DER 形式で適当な場所に証明書を保存します。コントロールパネルの[Java]を開き、[セキュリティ]ページの[証明書]ボタンをクリックして証明書登録画面を表示し、[セキュアサイト]を選択して[インポート]ボタンをクリックし、ファイルタイプを[全てのファイル]に変更して先に保存した証明書を選択することで、Java への証明書の登録が完了します。



- (6) 接続が正常に行われるとログイン画面が表示され、G-150AD との通信が全て暗号化されます。

一般ユーザーの Web ページアドレスや各言語ごとの Web ページアドレスは、前項の [http] 部分を [https] に置き換えたものになります。



4 初期設定

ここでは、G-150AD の初期設定画面の操作方法について説明します。

※ 最初の電源投入時の設定方法については「集中コントローラ G-150AD 取扱説明書」の 4 章をご参照ください。

4-1 現在日時を設定する

メニューの [初期設定] をクリックして現在日時設定画面を開き、現在日時を入力します。日時入力後、設定保存ボタンをクリックして G-150AD に現在日時を送信してください。

※管理者ユーザーでログインした場合、操作が禁止されている場合があります。

※TG-2000 が接続されているシステムの場合、TG-2000 と G-150AD の時刻が一致するよう、設定および変更は TG-2000 から行ってください。（設定されないユニットもあります。）

※この画面で時刻設定を行うと、M-NET 上の他のユニット、拡張コントローラ（PAC-YG50EC）、時刻マスタ設定がサブに設定された G-150AD にも時刻が設定されます。

※拡張コントローラ（PAC-YG50EC）、汎用インターフェース（PAC-YG66DC）、環境用計測コントローラ（PAC-YG63MC）、計量用計測コントローラ（PAC-YG60MC）を新たに接続した場合、これらのユニットに現在日時を設定するために、この画面で日時設定を行ってください。

※拡張コントローラを接続して G-150AD を複数接続する場合は、「4-2-3 時刻マスタの設定を行う」を行ってください。時刻マスタ設定がサブ設定されている場合は設定操作ができません。

お願い

拡張コントローラ（PAC-YG50EC）接続時の場合、日時設定は拡張コントローラを正常に接続している状態で行ってください。
拡張コントローラと正常に接続していない状態で設定した場合、その拡張コントローラに日時は設定（変更）されません。

更新ボタン
G-150AD から現在時刻を読み込みます

現在日時
現在日時を入力します

設定保存ボタン
G-150AD および登録されている PLC、拡張コントローラに現在時刻を送信します

4-2 本体の基本情報、外部入力機能を設定する

メニューの[初期設定]→[基本システム]をクリックして基本システム画面を開き、G-150AD 本体の名称やネットワーク設定、M-NET 設定などの各種基本設定を行います。設定内容入力後は、設定保存ボタンをクリックして G-150AD に設定内容を送信してください。

なお、ネットワークの設定、システム構成の設定（拡張コントローラ接続有無・接続先、M-NET の設定、外部入力の設定）を変更した場合、再起動を行う旨のメッセージが表示されますので、[OK] をクリックして G-150AD の再起動を行い、変更内容を反映させてください。

※管理者ユーザーでログインした場合、操作が禁止されている場合があります。

本体の設定
G-150AD の名称、識別番号を設定します

ネットワークの設定
G-150AD の IP アドレス、サブネットマスクを設定します

表示設定
本体、Web 上での表示に関する項目を設定します

更新ボタン
G-150AD から設定内容を読み込みます

時刻マスタの設定
時刻マスタ/サブを設定します。

システム構成の設定
拡張コントローラの接続有無・接続先、M-NET の設定、外部入力の設定、時刻マスタ設定、スケジュール季節設定を行います

拡張コントローラ接続有無
拡張コントローラの接続有無を設定します

M-NET の設定
G-150AD の M-NET アドレス、K 制御機種の有無、手元禁止する機器を設定します

外部入力の設定
G-150AD の外部入力の設定を行います

設定保存ボタン
G-150AD へ設定内容を送信します

スケジュール季節設定
スケジュール季節設定の有効/無効を設定します。

4-2-1 G-150AD 本体の設定を行う

本体の設定部で、G-150AD の名称、識別番号を設定します。

本体の設定	
名称	<input type="text"/>
識別番号	<input type="text" value="000001"/> (数字6桁)
製造番号	XXXXXX-XXX
ソフトウェアバージョン	X.XX (DB No.01)

(1)[名称]部に G-150AD 本体の名称を最大 40 文字で入力します。ここで入力された名称は異常発生時に送信される異常メール本文内の送信者名称として表示されます。

※名称には <> & “ ’ (半角) の文字は利用できません。

(2)[識別番号]部に G-150AD の識別番号を数字 6 桁 (半角) で入力します。複数の G-150AD を識別番号で管理したい場合などにご利用ください。ここで入力された識別番号は異常発生時に送信される異常メール本文内の送信者識別番号として表示されます。

(3)[製造番号]部に G-150AD の製造番号が、[ソフトウェアバージョン]部に G-150AD のソフトウェアバージョンと DB No.が表示されます。

※DB No.は拡張コントローラ接続用 No.です。G-150AD と拡張コントローラの DB No.が一致していない場合、ソフトウェアアップデートが必要です。

4-2-2 システム構成の設定を行う

システム構成の設定部で、拡張コントローラー（PAC-YG50EC）の接続有無・接続先の設定、M-NET の設定、外部入力の設定を行います。

※拡張コントローラーを接続して G-150AD を複数接続する場合は、システム構成の設定は同じ設定にしてください。

4-2-2-1 拡張コントローラー接続有無・接続先の設定を行う

拡張コントローラー（PAC-YG50EC）の接続有無・接続先の設定を行います。

システム構成の設定
拡張コントローラ なし あり
M-NET の設定
M-NET アドレス 0

(1) 拡張コントローラーの接続有無（[なし] [あり]）を選択します。

※拡張コントローラーを [あり] に設定する場合は、必ず拡張コントローラーを接続した上で各種設定を行ってください。拡張コントローラーが未接続の場合、[設定保存] を行っても設定が保存されないデータがあります（M-NET 設定、外部入力設定、グループ設定、ロスナイ連動設定等）。

(2) 拡張コントローラー [あり] を選択した場合は、拡張コントローラーシステム選択部、接続先の拡張コントローラーの IP アドレス入力欄が表示されますので、各拡張コントローラーに設定されている IP アドレスを入力してください。

例えば拡張コントローラーを 2 台接続する場合は [EC1] を選択して 1 系統目の拡張コントローラーの IP アドレスを入力し、次に [EC2] を選択して 2 系統目の拡張コントローラーの IP アドレスを入力します。

※拡張コントローラー自身の IP アドレスは拡張コントローラー本体にて設定してください。

システム構成の設定
拡張コントローラ なし あり
接続先の設定
IP アドレス 192 . 168 . 1 . 211
ソフトウェアバージョン 1.00 (DB No.01)
M-NET の設定
M-NET アドレス 0

(3) 拡張コントローラーの接続有無を変更した場合、および接続先の拡張コントローラーの IP アドレスを変更した場合は、[設定保存] ボタンをクリックし、メッセージに従って G-150AD を再起動してください。M-NET の設定および外部入力の設定は再起動後に設定してください。

※拡張コントローラー接続後、本体のデータベース番号 (DB No.) と拡張コントローラーのデータベース番号が一致していることをご確認ください。一致していない場合、ソフトウェアのバージョンアップが必要となりますので、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせください。

お願い 拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時、M-NET 設定、外部入力設定等を変更する場合は、正しく拡張コントローラーに接続している状態で設定してください。これらの設定データは拡張コントローラー側で保存します。

4-2-2-2 M-NET の設定を行う

M-NET の設定部で、G-150AD の M-NET アドレス、K 制御機種の有無、手元禁止の対象となる機器を設定します。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラーシステム選択部] で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラーが正常に接続されている状態で行ってください。

M-NET の設定
M-NET アドレス 0
K 制御機種 なし あり
K 伝送コンバータアドレス
操作禁止範囲 SC・RC RCのみ

(1) [M-NET アドレス] 部に M-NET アドレスを入力します。通常は [0] を入力してください。

(2) K制御の空調機が接続される場合は、[K制御機種]部で[あり]をクリックして選択し、K伝送コンバータのM-NETアドレスを[K伝送コンバータアドレス]部に入力します。

(3) 手元操作禁止に設定した場合に、下位システムコントローラとリモコンの両方を操作禁止とするか、リモコンだけを操作禁止とするかを選択します。下位システムコントローラとリモコンの両方を操作禁止とする場合は[SC・RC]を、リモコンだけを操作禁止とする場合は[RCのみ]をクリックして選択します。

※通常は[SC・RC]を選択してください。

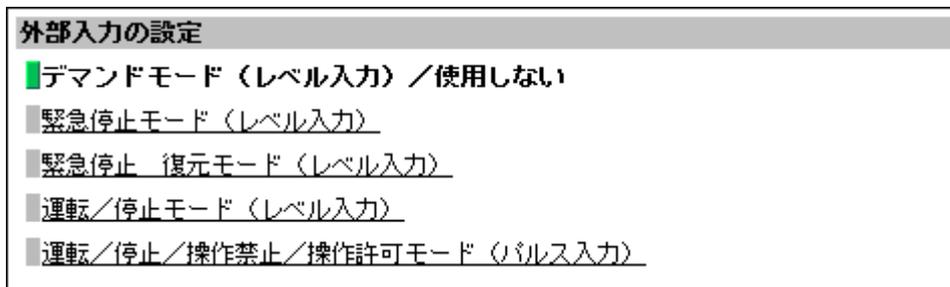
4-2-2-3 外部接点入力の設定を行う

外部接点入力の設定部で、外部接点入力機能を設定します。外部接点入力機能を用いると、別売の外部入出力アダプタ (PAC-YG10HA) を介して接点信号やパルス信号で空調機の一括停止、一括運転などが可能となります。

※拡張コントローラ (PAC-YG50EC) 接続時は、G-150AD 側ではなく拡張コントローラ (PAC-YG50EC) の外部入出力を使用してください。外部入力信号線は各拡張コントローラの外部接点入力端子に接続してください。

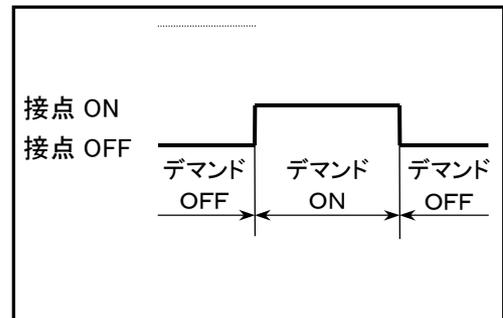
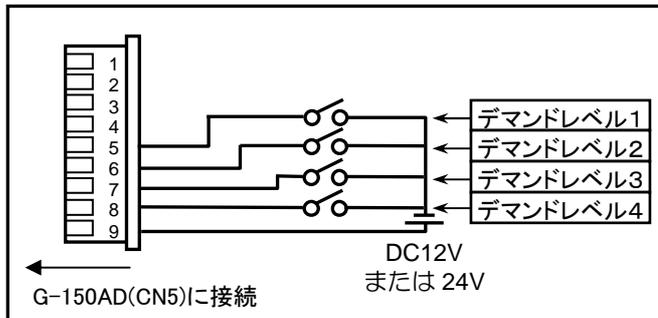
※拡張コントローラ (PAC-YG50EC) 接続時は、[拡張コントローラシステム選択部] でシステムを選択し、各システムごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラが正常に接続されている状態で行ってください。

※汎用インターフェース (PAC-YG66DC) は外部接点入力機能の一括停止、一括運転の対象外です。ただし、[緊急停止モード設定 (レベル入力)] [緊急停止 復元モード設定 (レベル入力)] を選択している場合は汎用インターフェース (PAC-YG66DC) のスイッチ設定により一括停止の対象となります。



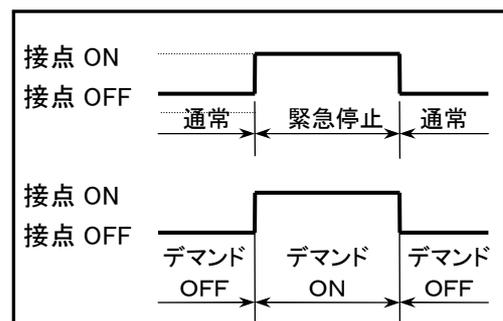
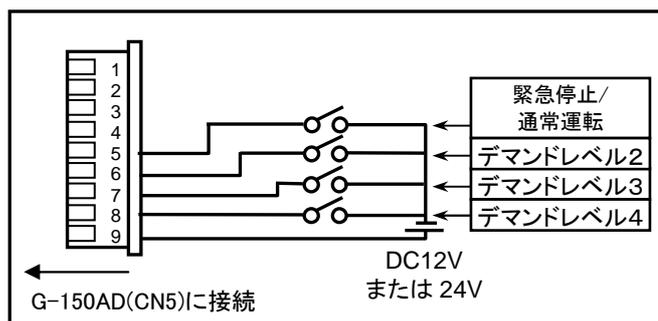
(1) デマンドレベルをレベル信号で入力する場合または、外部接点入力機能を使用しない場合は[デマンドモード (レベル入力) / 使用しない]を選択してください。

※デマンドレベルの詳細については、取扱説明書または据付工事説明書をご覧ください。



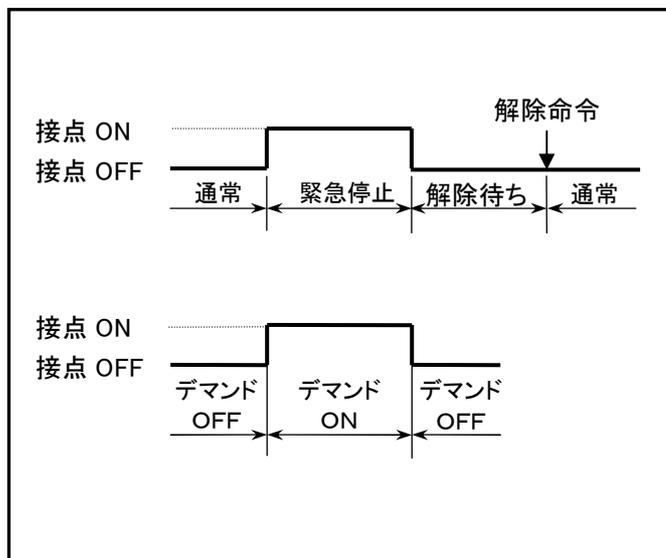
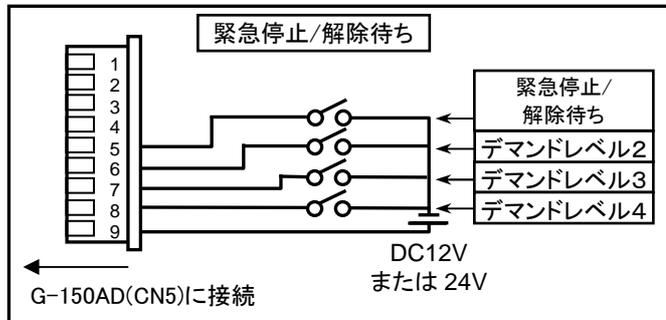
(2) [緊急停止モード (レベル入力)] を選択した場合、レベル信号による一括停止が行えます。一括停止中は G-150AD 本体やリモコンの運転/停止操作が禁止となります。また、デマンドレベルの入力ができます。

※デマンドレベルの詳細については、取扱説明書または据付工事説明書をご覧ください。

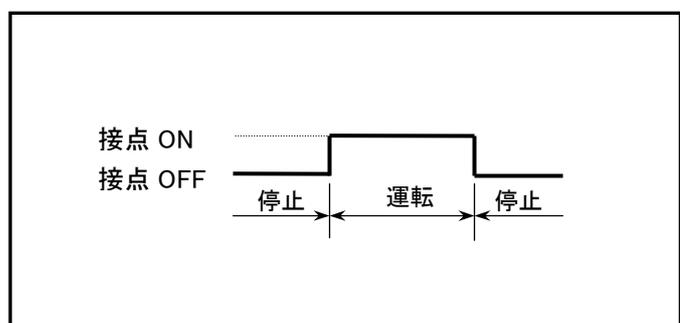
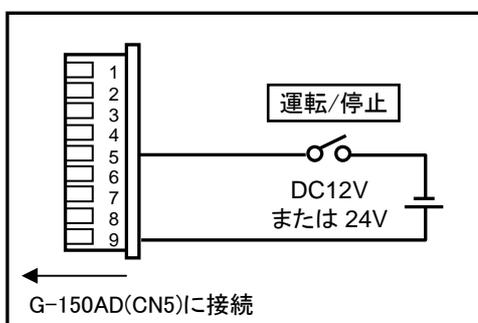


(3) [緊急停止 復元モード(レベル入力)]を選択した場合、レベル信号による一括停止が行えます。一括停止中はG-150AD 本体やリモコンの運転/停止操作が禁止となります。接点を OFF とすると緊急停止解除待ちとなります (G-150AD 本体やリモコンの運転/停止操作の禁止は継続)。上位機器 (Facima BA System) から解除命令を受けることで、緊急停止を解除できます。また、デマンドレベルの入力ができます。

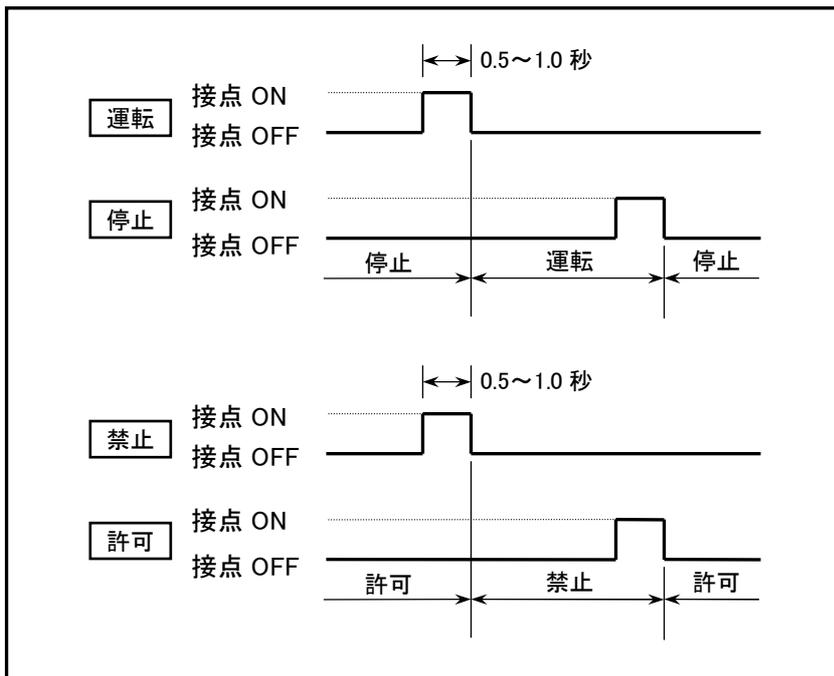
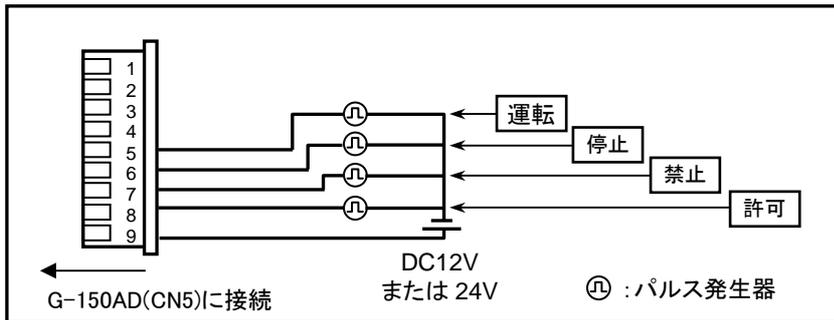
※デマンドレベルの詳細については、取扱説明書または据付工事説明書をご覧ください。



(4) [運転/停止モード(レベル入力)]を選択した場合、レベル信号による一括運転、一括停止が行えます。このモードでは、G-150AD に接続される全空調機は常に一括運転か一括停止かのどちらかとなり、G-150AD 本体やリモコンの運転/停止操作が禁止となります。



(5) [運転/停止/操作禁止/操作許可モード(パルス入力)]を選択した場合、パルス信号による一括運転、一括停止、手元操作禁止、手元操作許可が行えます。このモードでは、操作禁止入力時以外はリモコンから自由に操作可能です。



4-2-3 時刻マスタの設定を行う

時刻マスタ設定でマスタまたはサブを設定します。

拡張コントローラー(PAC-YG50EC)を使用してG-150ADを複数使用する場合、時刻マスタ設定でサブとして設定されたG-150ADは、マスタとして設定したG-150ADの時刻に自動的に合合わせられます。

※通常はマスタ(工場出荷設定)に設定して下さい。

※ひとつの拡張コントローラー(PAC-YG50EC)に接続されるG-150ADの中では、マスタに設定するG-150ADは1台だけとしてください。

時刻マスタ設定 マスタ サブ

4-2-4 スケジュール季節設定を行う

スケジュール季節設定の有効/無効を設定します。

有効の場合、週間スケジュールを使用することができます。無効の場合、週間スケジュールは動作しません。

※工場出荷時は、有効に設定されていますので、本設定値のまま使用してください。

スケジュール 季節設定 有効 無効

4-2-5 ネットワークの設定を行う

ネットワークの設定部で、G-150ADのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを設定します。

なお、既設のLANにG-150ADを接続する場合は、ネットワーク管理者と相談し、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを設定してください。

ネットワークの設定				
IPアドレス	192	168	1	1
サブネットマスク	255	255	255	0
ゲートウェイ				
MACアドレス	08007033AE02			

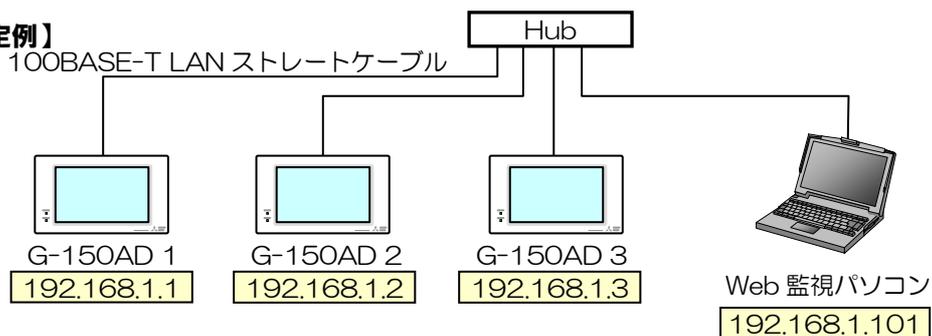
4-2-5-1 専用LANにG-150ADを接続する場合の設定方法

(1) [IPアドレス]部にG-150ADのIPアドレスを入力します。G-150AD用にLAN配線を新設した場合は、G-150ADのIPアドレスを[192.168.1.1]から順に割り振ります。例えば、1台目のG-150ADは[192.168.1.1]、2台目のG-150ADは[192.168.1.2]という形で設定していきます。

また、G-150ADを監視、設定するWeb監視パソコンなども同一システムのネットワークアドレスに設定します。

※G-150AD専用LANの場合、G-150AD本体のIPアドレスは[192.168.1.1]～[192.168.1.40]、G-150ADと接続するパソコンのIPアドレスは[192.168.1.101]～[192.168.1.150]の間で設定することを推奨しています。

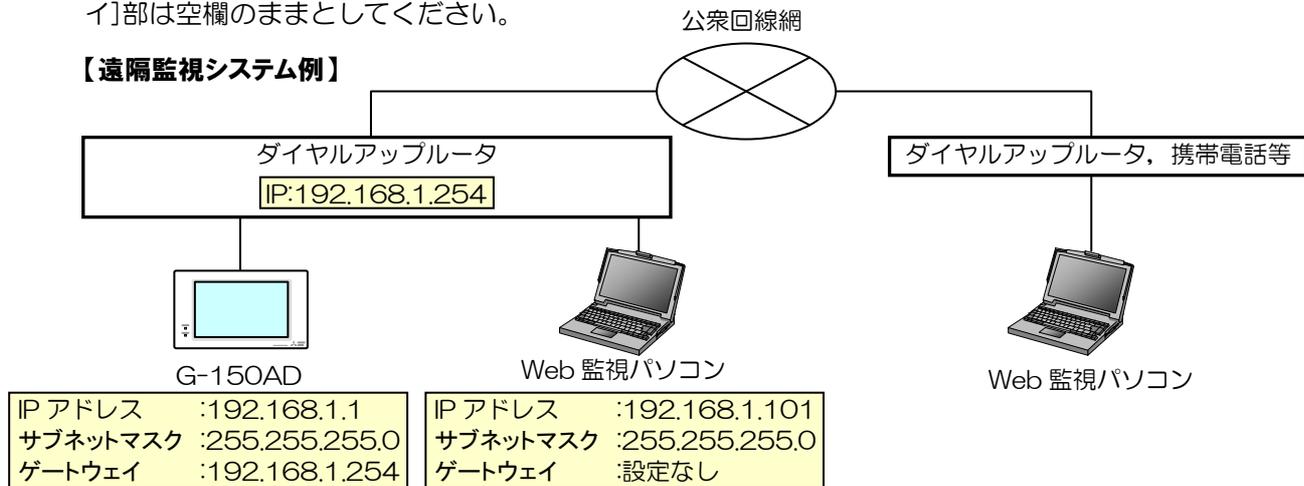
【IPアドレス設定例】



※Hubの中にはHub同士を接続する専用ポートを持っている機種があります。G-150ADやWeb監視パソコンは通常ポートへ接続してください。

(2) [サブネットマスク]部に G-150AD のサブネットマスクを入力します。通常は[255.255.255.0]を入力してください。

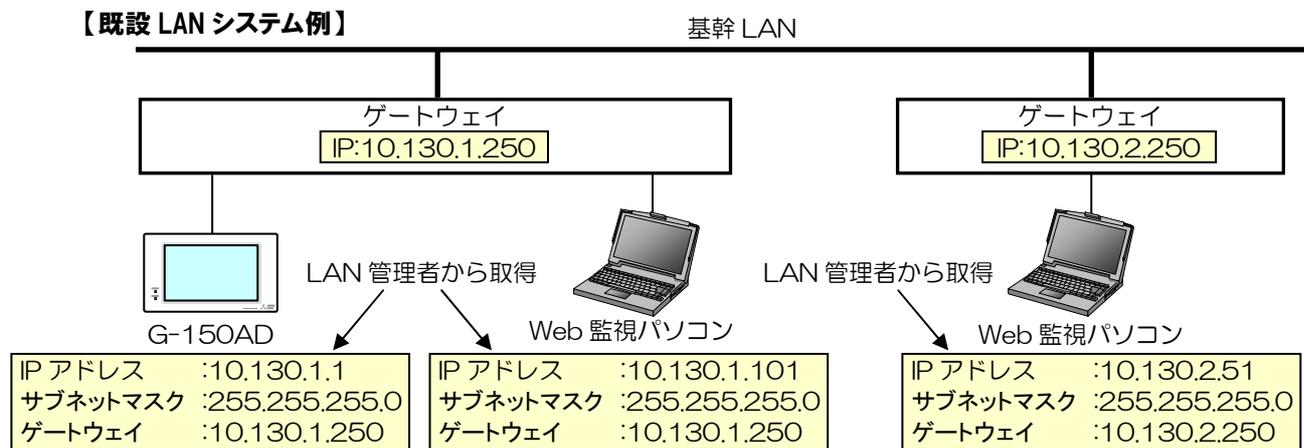
(3) ダイヤルアップルータ経由で遠隔監視または異常メール通報を行う場合は、[ゲートウェイ]部にダイヤルアップルータの IP アドレスを入力します。ダイヤルアップルータを接続しない場合は、[ゲートウェイ]部は空欄のままとしてください。



※ダイヤルアップルータの IP アドレスは [192.168.1.254] で設定することを推奨しています。IP アドレスの設定方法は、ダイヤルアップルータの取扱説明書をお読みください
 ※モデム機能の無いダイヤルアップルータを利用する場合は、ダイヤルアップルータと公衆回線網の間にモデム（アナログ用、ISDN 用）を接続する必要があります。

4-2-5-2 既設の LAN に G-150AD を接続する場合の設定方法

既設の LAN に G-150AD を接続する場合は、LAN を管理しているネットワーク管理者と相談し、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを設定してください。



4-2-6 表示の設定を行う

表示の設定部で、表示関連の設定を行います。

表示の設定			
温度表示単位	<input checked="" type="checkbox"/> °C	<input type="checkbox"/> °F	
日付形式	<input type="checkbox"/> 31/12/2012	<input type="checkbox"/> 12/31/2012	<input checked="" type="checkbox"/> 2012/12/31
時間形式	<input type="checkbox"/> 06:00 PM	<input checked="" type="checkbox"/> 18:00	
一覧画面グループ名表示	<input checked="" type="checkbox"/> オン	<input type="checkbox"/> オフ	
フィルターサイン表示	<input checked="" type="checkbox"/> オン	<input type="checkbox"/> オフ	
室温表示 (グループ一覧除く)	<input checked="" type="checkbox"/> 常時表示	<input type="checkbox"/> 運転中表示	<input type="checkbox"/> 表示しない

- (1) [温度表示単位]部で温度単位を選択します。ここで設定された形式で、Web 上及び G-150AD 本体の温度表示単位が表示されます。
- (2) [日付形式] 部で年月日の並び順を選択します。ここで設定された形式で、Web 上及び G-150AD 本体の日付、メールの日付が表示されます。
- (3) [時間形式] 部で時刻の表示方法を選択します。ここで設定された形式で、Web 上及び G-150AD 本体の時間、メールの時間が表示されます。
- (4) [一覧画面グループ名表示] 部で、[運転状態のモニタ/操作] 画面のアイコンの下にグループ名を表示するか、しないかを選択します。表示する場合は [オン] を、表示しない場合は [オフ] を選択します。
※アイコンの下に表示されるグループ名は8文字までです。アイコンにカーソルを合わせたときは、グループ名称の全ての文字が表示されます。



グループ名表示あり



グループ名表示なし

- (5) [フィルターサイン表示] 部でフィルターサインを表示するか、しないかを選択します。フィルターサインを表示する場合は [オン] を、表示しない場合は [オフ] を選択してください。
フィルターサイン表示を [オフ] にすると、室内ユニットがフィルターサインを検出した場合でも、G-150AD 本体の画面、および Web ブラウザの監視画面でフィルターサインが表示されなくなります。定期的にフィルターの清掃を行っている等、フィルターサイン表示が不要な場合は [オフ] に設定してください。
- (6) [室温表示] 部で [運転状態のモニタ/操作] 画面のフロアレイアウト表示及び、ブロッカー一覧表示に表示される室温の[常時表示], [運転中表示], [表示しない]を選択します。室温を常に表示する場合は [常時表示], 運転中のみ表示する場合は [運転中表示], 常に表示しない場合は [表示しない] を選択してください。

※G-150AD 本体液晶画面の室温表示設定は本体液晶画面のユニット情報設定画面で行なってください。

※GB-50AD では、ブロッカー一覧表示でのみ室温表示できます。

4-3 操作グループを登録する

メニューの[初期設定]→[グループ設定]をクリックしてグループ設定画面を開き、G-150AD に接続される空調機、換気機器または汎用機器のグループ登録およびグループ名称設定を行います。

設定内容入力後は、設定保存ボタンをクリックして G-150AD に設定内容を送信してください。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。

※管理者ユーザーでログインした場合、操作が禁止されている場合があります。

※TG-2000 が接続されているシステムの場合、TG-2000 と G-150AD の保持データが一致するよう、設定および変更は TG-2000 から行ってください。

※汎用インターフェースの1接点は1ユニットに換算されます。

※空調機と汎用機器が混在したグループを設定することはできません。

※汎用機器のグループには、リモコン、システムコントローラは登録できません。

※拡張コントローラーを接続して G-150AD を複数接続する場合は、操作グループは同じ設定にしてください。

お願い

拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時、設定は拡張コントローラーを正常に接続している状態で行ってください。
拡張コントローラーと正常に接続していない状態で設定した場合、その拡張コントローラーのグループは設定されません。

拡張コントローラー系統選択部
設定する系統を選択します

空調機・汎用機器登録部
接続する空調機・汎用機器を登録します。クリックすると登録用の画面が表示されます

システムコントローラ登録部
接続するシステムコントローラを登録します。クリックすると登録用の画面が表示されます

リモコン登録部
接続するリモコンを登録します。クリックすると登録用の画面が表示されます

設定保存ボタン
G-150AD へ設定内容を送信します

更新ボタン
G-150AD から設定内容を読み込みます

グループ番号
グループ番号が表示されます

グループ名称
グループ名称を登録します

4-3-1 グループ名称を設定する

(1)グループ名称の設定部にグループ名称を最大20文字で設定します。

※グループ名称には <> & “ ‘ (半角) の文字は利用できません。

4-3-2 空調機をグループに登録する

(1)空調機を登録する場合、設定したいグループの空調機・汎用機器登録部をクリックし、空調機の登録画面を表示します。

次に登録したいユニット番号をクリックし、選択状態（黄緑色表示）にします。

接続を解除したい場合は、再度クリックすることで非選択状態（灰色表示）に戻ります。

※1グループに対し、最大16台までの空調機が登録できます。

※汎用機器が登録されているグループを空調機に変更する場合は、汎用機器の接続を解除してから空調機を登録してください。

※換気機器（ロスナイ）・加熱加湿付ロスナイを登録する場合は、空調機を選択して登録してください。

※換気機器（ロスナイ）を登録する場合は、ナイトパーズありのユニットとナイトパーズなしのユニットを同一グループに登録しないでください。

ユニットアドレスの選択

エントランス

空調機

汎用機器 (PAC-YG60C接続)

ユニットアドレス

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50

キャンセル OK

又、24 時間換気ありのユニットと 24 時間換気なしのユニットを同一グループに登録しないでください。

(2) アイコンを変更する場合はアイコンの左右の矢印をクリックし、使用するアイコンを選択します。

(3) グループにリモコンを登録したい場合は、リモコン登録部をクリックしてリモコンのユニットアドレス選択画面を表示し、登録したいユニット番号をクリックして選択状態（黄緑色表示）にします。

解除したい場合は、再度クリックすることで非選択状態（灰色表示）に戻ります。

※1グループに対し、最大2台までのリモコンが登録できます。

※MA リモコン、K 制御用リモコンは登録する必要はありません。

ユニットアドレスの選択										
エントランス										
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	
111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	
121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	
131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	
141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	
151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	
161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	
171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	
181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	
191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	

キャンセル OK

(4) グループにシステムコントローラを登録したい場合は、システムコントローラ登録部をクリックしてシステムコントローラのユニットアドレス選択画面を表示し、登録したいユニット番号をクリックして選択状態（黄緑色表示）にします。

解除したい場合は、再度クリックすることで非選択状態（灰色表示）に戻ります。

※1グループに対し、リモコンとシステムコントローラを合わせて4台まで登録できます。

※K 伝送コンバータは登録する必要はありません。

ユニットアドレスの選択										
エントランス										
201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	0
211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	
221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	
231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	
241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	

キャンセル OK

4-3-3 汎用機器をグループに登録する

(1) 汎用機器を登録する場合、設定したいグループの空調機・汎用機器登録部をクリックし、表示されたユニットアドレスの選択画面で[汎用機器(PAC-YG66DC 接続)]を選択して汎用機器の登録画面を表示します。次に登録したい汎用機器が接続された汎用インターフェース (PAC-YG66DC) のユニット番号をクリックして選択状態（赤枠表示）にし、汎用機器が接続されている接点番号を選択します。

接続を解除したい場合は、ユニット番号を選択し、選択されている接点番号をクリックすることで非選択状態（灰色表示）に戻ります。

※1グループに対し、最大16台までの汎用機器が登録できます。

※空調機が登録されているグループを汎用機器に変更する場合、空調機の接続を解除してから汎用機器を登録してください。

ユニットアドレスの選択										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	

接点番号

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

キャンセル OK

操作設定

- 操作可能（一括、グループ単位）
- 操作可能（グループ単位）
- 操作禁止（監視のみ）

表示設定

- 接点出力状態
- 接点入力状態

(2) アイコンを変更する場合はアイコンの左右の矢印をクリックし、使用するアイコンを選択します。

(3) Web ブラウザ、TG-2000 の操作画面で運転・停止操作を可能とするか、操作不可とするかを [操作設定] 部で選択します。一括操作で運転・停止状態を反映させたいときは [操作可能(一括、グループ単位)] を、グループ単位での操作のみ行いたい場合は [操作可能(グループ単位)] を、操作を禁止したい場合は [操作禁止(監視のみ)] を選択します。

(4) 運転状態のモニタ/操作画面にて表示される運転・停止状態を、汎用機器に対する出力状態を表示するか、汎用機器からの入力状態を表示するかを [表示設定] 部で選択します。

4-4 換気機器(ロスナイ・加熱加湿付ロスナイ)の連動情報を設定する

換気機器を室内ユニットの運転/停止に連動して動作させたい場合、メニューの[初期設定]→[連動ロスナイ設定]をクリックして連動ロスナイ設定画面を開き、換気機器の連動条件を設定します。

設定内容入力後は、設定保存ボタンをクリックしてG-150ADに設定内容を送信してください。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。

※管理者ユーザーでログインした場合、操作が禁止されている場合があります。

※TG-2000が接続されているシステムの場合、TG-2000とG-150ADの保持データが一致するよう、設定および変更はTG-2000から行ってください。

※拡張コントローラーを接続してG-150ADを複数接続する場合は、換気機器の連動条件は同じ設定にしてください。

※加熱加湿付ロスナイに設定する場合は、SW3-1をOFF（工場出荷時）にしてください。詳しくは加熱加湿付ロスナイの据付工事説明書をご覧ください。

お願い

拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時、設定は拡張コントローラーを正常に接続している状態で行ってください。
拡張コントローラーと正常に接続していない状態で設定した場合、その拡張コントローラーの連動条件は設定されません。



拡張コントローラー系統
選択部
設定する系統を選択します

連動ロスナイ登録部
連動させる換気機器を登録し
ます。クリックすると登録用の画面
が表示されます

連動元室内ユニット登録部
連動元の室内ユニットを登録し
ます。クリックすると登録用の
画面が表示されます

更新ボタン

G-150AD から設定内容を読み
込みます

設定保存ボタン

G-150ADへ設定内容を送信し
ます

- (1)連動ロスナイ登録部をクリックすると、連動ロスナイのユニットアドレス選択画面が表示されますので、登録したいユニット番号をクリックし、選択状態（黄緑色表示）にします。
解除したい場合は、再度クリックすることで非選択状態（灰色表示）に戻ります。



- (2)連動元室内ユニット登録部をクリックして室内ユニットのユニットアドレス選択画面を表示し、登録したいユニット番号をクリックして選択状態（黄緑色表示）にします。
解除したい場合は、再度クリックすることで非選択状態（灰色表示）に戻ります。

※1台の換気機器に対し、最大16台までの室内ユニットが登録できます。



4-5 操作ブロックを登録する

Web や TG-2000 で複数の空調グループを一括して監視・操作したい場合、または省エネ・ピークカット制御を実施したい場合は、メニューの[初期設定]→[ブロック設定]をクリックしてブロック設定画面を開き、ブロックにグループを登録します。

設定内容入力後は、設定保存ボタンをクリックして G-150AD に設定内容を送信してください。

※24 時間換気のロスナイに対して、ピークカット停止制御すると、換気が停止するため、24 時間換気のロスナイは別ブロックに設定してください。

※管理者ユーザーでログインした場合、操作が禁止されている場合があります。

※TG-2000 が接続されているシステムの場合、TG-2000 と G-150AD の保持データが一致するよう、設定および変更は TG-2000 から行ってください。

4-5-1 ブロック名称を登録する

ブロック名設定部に Web 画面等で表示されるブロック名称を英数字または記号を用いて最大 20 文字で設定します。

※ブロック名称には <> & “ ‘ (半角) の文字は利用できません。

4-5-2 グループをブロックに登録する

グループ登録部をクリックすると、グループの選択画面が表示されますので、登録したいグループ番号をクリックし、選択状態（黄緑色表示）にします（マウスカursorをグループ番号に合わせると、グループ名称が表示されます）。

解除したい場合は、再度クリックすることで非選択状態（灰色表示）に戻ります。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラーが正常に接続されている状態で行ってください。

5 機能設定1

5-1 異常メール通報, メール通信を行う

異常メール通報, またはメンテナンスツール等でメール通信による遠隔監視を行いたい場合は, メニューの [機能設定1] - [メール設定] をクリックしてメール設定画面を開き, 各種メール設定を行います。

設定内容入力後は, 設定保存ボタンをクリックして G-150AD に設定内容を送信してください。

※管理者ユーザーでログインした場合, 操作が禁止されている場合があります。

メールサーバ情報
メールサーバ, DNS サーバ情報を設定します

メール通信設定
メールにて通信可能な, 相手先メールアドレスを設定します

更新ボタン
G-150AD から設定内容を読み込みます

G-150ADのメール設定
G-150ADのメール情報を設定します

異常メール設定
異常メールのあて先を設定します

設定保存ボタン
G-150AD へ設定内容を送信します

5-1-1 G-150AD のメール情報を設定する

インターネットプロバイダまたは LAN 管理者から入手したメール情報を入力します。

※インターネットプロバイダ経由でメール送信する場合は, インターネットプロバイダとの契約が必要となります。

G-150ADのメール設定	
メールアドレス	mitsubishi@50.co.jp
ユーザーID	50
パスワード	*****
受信メールチェック間隔	1 分ごと

なお, 利用する機能により設定が必要な項目が違いますので, 下表を参照にして, 必要項目を設定してください。

表 5-1 設定が必要な項目 (G-150AD のメール設定)

設定項目	機能	異常メール通報		メール通信	
		SMTP 認証なし	SMTP 認証あり	SMTP 認証なし	SMTP 認証あり
メールアドレス		○	○	○	○
ユーザーID			○	○	○
パスワード			○	○	○
受信メールチェック間隔				○	○

5-1-2 メールサーバ情報を設定する

インターネットプロバイダまたは LAN 管理者から入手したメールサーバ情報を入力します。

メールサーバ部分は IP アドレスまたはホスト名(サーバ名)のどちらでも入力可能です。

※送信メールサーバ(SMTP)のポート番号は 25 固定です。

なお、利用する機能により設定が必要な項目が異なりますので、下表を参照にして、必要項目を設定してください。

表 5-2 設定が必要な項目 (メールサーバ情報)

設定項目	機能	異常メール通報		メール通信	
		SMTP 認証なし	SMTP 認証あり	SMTP 認証なし	SMTP 認証あり
送信メールサーバ (SMTP)	○ IP アドレス またはホスト名	○ ホスト名	○ IP アドレス またはホスト名	○ ホスト名	
SMTP 認証				○	
受信メールサーバ (POP)			○ IP アドレス またはホスト名	○ IP アドレス またはホスト名	
優先 DNS サーバ	(○) ※1	○	(○) ※1	○	
代替 DNS サーバ	(○) ※1	○	(○) ※1	○	

※1；メールサーバが IP アドレスで入力されている場合は不要

5-1-3 異常メール送信先を設定する

(1)メールタイトルの設定部に G-150AD から送信される異常メールのタイトルを、最大 40 文字で入力します。

※メールタイトルには <> & “ ‘ (半角) の文字は利用できません。

(2)異常種別を[ユニット異常][通信異常][汎用機器]および[ユーザー設定 1]～[ユーザー設定 6]から選択し、異常メールを送信する相手のメールアドレスを入力します。

※汎用インターフェースに接続されている汎用機器は、[ユニット異常]として異常メールが送信されます。

※異常種別に表示される[ユニット異常猶予]は弊社サービス用です。弊社サービスマン以外は使用しないでください。

(3)特定の異常コード発生時のみメールを送りたい場合は、[ユーザー設定 1]～[ユーザー設定 6]選択時に表示されるユーザー設定ボタンをクリックして、特定の異常コードを設定します。

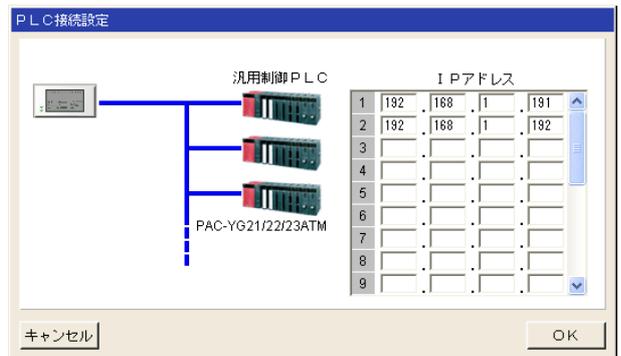
各ユーザー設定には 20 個までの異常コードを登録でき、[1302]や[6607]といった個別の異常コードに加えて、[10**]や[12**]といった設定も行うこともできます。例えば [10**] と設定した場合は、[1000]～[1099] までの異常が発生した場合に異常メールを送信します。

この画面で異常コードを設定した場合、設定したユーザー設定のメール送信先が登録されていることを確認してください。

(4) 汎用制御 PLC に接続された汎用機器の異常発生時にメールを送信したい場合は、[汎用機器] 選択時に表示される PLC 接続設定ボタンをクリックして汎用制御 PLC の IP アドレスを設定します。

異常発生時に送信されるメールには、ここで設定した IP アドレスの行番号が PLC 番号として送信されます（例：2 行目に記載した PLC の汎用機器 20 が異常の場合、異常発生元に [PLC2-20] が記載されます）。

※汎用制御 PLC に接続された汎用機器の状態を監視するには TG-2000 が必要となります。



5-1-4 メールフォーマット

異常発生時に送信されるメールは、以下のフォーマットで送信されます。

物件名：三菱ビル(000001)
 発生日時：2008/10/12 01:26:47
 異常発生元：021
 異常コード：6607
 状態:発生

項目	フォーマット	備考
タイトル	設定されたタイトル	メールタイトルの設定方法は 5-1-3 (1) 参照
物件名	G-150AD の名称+識別番号	G-150AD の名称と識別番号の設定方法は 4-2-1 参照
発生日時	yyyy/mm/dd hh:mm:ss	異常発生日時 ※日付フォーマットは 4-2-6 章で設定した内容が反映されます
異常発生元	空調機・汎用機器の異常： 異常発生元の M-NET アドレス(000~250) ※拡張コントローラーが接続されている場合は、 [拡張コントローラー番号(1~3)]-[M-NET アドレス] となります。 汎用制御 PLC に接続された汎用機器の異常： [PLC 番号(1~20)]-[汎用機器の接続番号(1~32)] 汎用制御 PLC の通信異常： [PLC 番号(1~20)]	PLC 番号は 5-1-3 (4) の設定画面の行番号 ※汎用インターフェース経由で接続した汎用機器は汎用インターフェースの M-NET アドレスが送信されます(汎用インターフェースに接続されたいずれかの汎用機器が異常発生したことが通報されます)
異常コード	4 桁の異常コード	M-NET 機器の異常： 各ユニットのサービスマニュアルをご覧ください 汎用機器の異常： 0091：汎用機器異常 汎用制御 PLC の通信異常： 0003：PLC LAN 接続異常 0007：PLC プログラム停止
状態	“発生”または“復旧”	異常変化状態

5-2 省エネ制御, ピークカット制御を行う

省エネ制御, ピークカット制御機能を利用したい場合は, メニューの[機能設定1]—[ピークカット設定]をクリックしてピークカット制御画面を開き, 各種ピークカット設定を行います。

設定内容入力後は, 設定保存ボタンをクリックしてG-150AD に設定内容を送信してください。

※ピークカット関連機器が正しく接続されピークカット制御可能となっていることを, 必ず試運転にてご確認ください。(制御レベルを変更することにより強制的に制御をかけることができます)

※省エネ制御・ピークカット制御利用時は, 別途, 省エネ制御ライセンスまたは, 省エネ制御(ピークカット)ライセンスの登録が必要となります。ライセンスが正常に登録されていることを, オプション機能のライセンス登録画面(10章)でご確認ください。

※管理者ユーザーでログインした場合, 操作が禁止されている場合があります。

※拡張コントローラーを接続してG-150AD を複数接続する場合は, いずれか1台で本設定を行ってください。

※汎用インターフェース(PAC-YG66DC)に省エネ制御・ピークカット制御は行えません。

※24時間換気のロスナイに対して, ピークカット停止制御すると換気が停止するため, 設定対象から外してください。



設定内容
選択したピークカット方式の内容を設定します

ピークカット方式
ピークカット方式を選択します

**拡張コントローラー系統
選択部**
設定する系統を選択します

室外ユニット制御方法
室外ユニットの制御方法を設定します

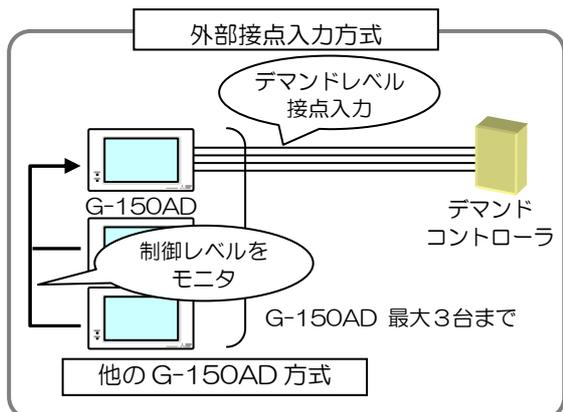
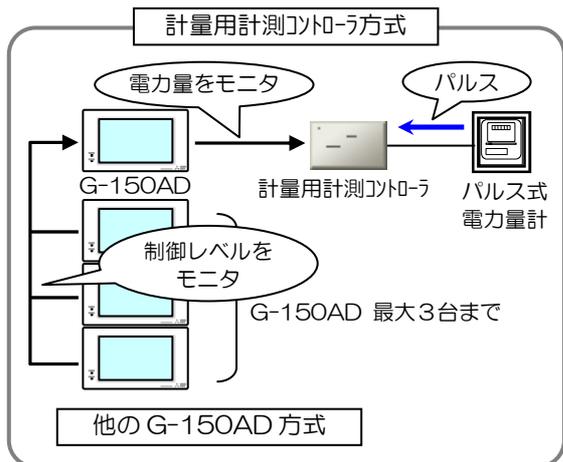
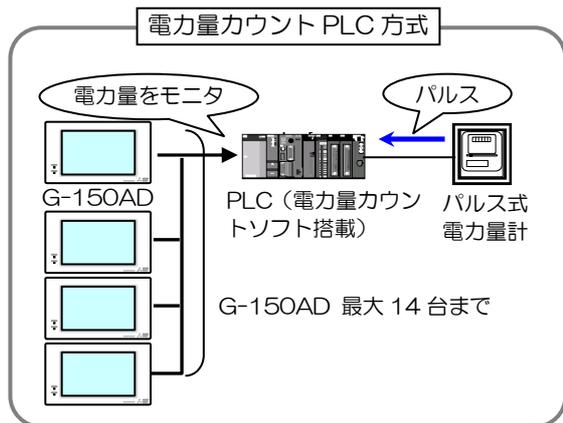
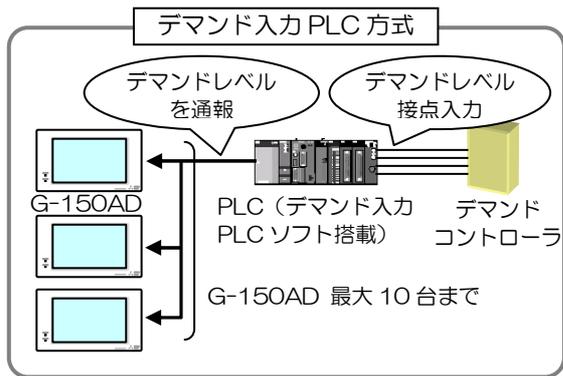
室内ユニット制御方法
室内ユニットの制御方法を設定します

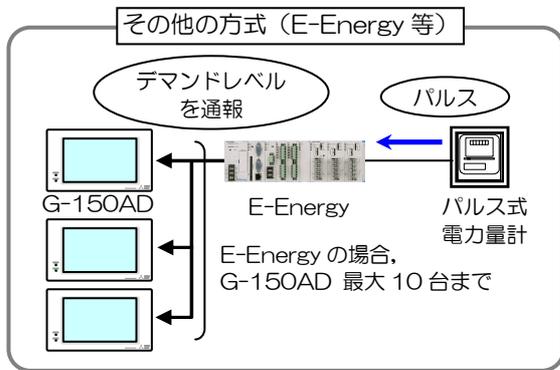
更新ボタン
G-150AD および PLC から設定内容を読み込みます

設定保存ボタン
G-150AD および PLC へ設定内容を送信します

ピークカット機能を利用する場合は, 全 G-150AD に『省エネ制御(ピークカット)』ライセンスを登録し, ピークカット方式, 室外・室内ユニットの制御方法を設定します。ピークカットライセンス登録時は0~4レベルの5段階に分けて制御を行うことができます。

常に同一の省エネ制御を行う場合は, 全 G-150AD に『省エネ制御』ライセンスを登録し, 室外・室内ユニットの制御方法のうち, レベル0の内容を設定します。

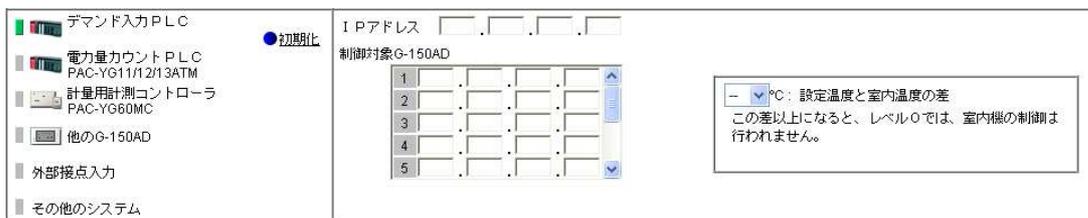




※E-Energy に接続先(G-150AD)の設定が必要となります。
詳細は E-Energy の取扱説明書をご覧ください。

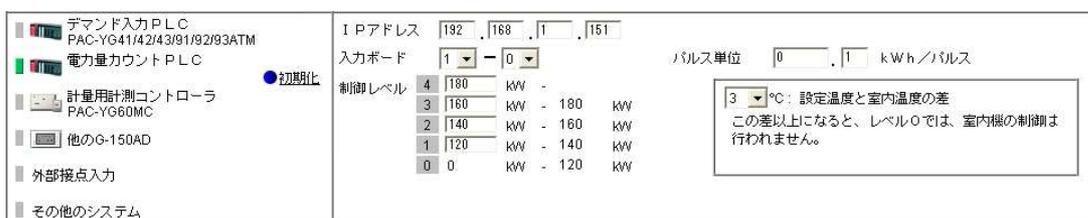
お願い コントローラの故障、伝送線の切断等により、実際の使用電力が設定したデマンド値を超えてしまった場合、当社は一切の責任を負いませんので、ご了承の上、利用願います。

5-2-1 デマンド入力 PLC を利用する場合



- (1) デマンド入力 PLC を利用する場合、設置後 1 度だけ PLC 初期化ボタンをクリックし、内部メモリの初期化を行います。
※運用を開始してからの初期化は絶対に行わないでください。初期化を行うと運用データが全てクリアされます。
- (2) デマンド入力 PLC の IP アドレスを入力します。
- (3) デマンドレベルを通報する制御対象 G-150AD の IP アドレスを入力します。最大 10 台まで登録可能です。
- (4) 省エネレベルが 0 のときに、設定温度と室内温度の差が開いている室内ユニットグループへは省エネ制御を実行しない機能を利用する場合は、ここで温度差を設定します。
 省エネレベル 0 で何らかの省エネ制御をかけていて、かつ快適性も重視したい場合に設定します(3~9℃の中から選択)。

5-2-2 電力量カウント PLC を利用する場合



- (1) 電力量カウント PLC を利用する場合、設置後 1 度だけ PLC 初期化ボタンをクリックし、内部メモリの初期化を行います。
※運用を開始してからの初期化は絶対に行わないでください。初期化を行うと運用データが全てクリアされます。
- (2) 電力量カウント PLC の IP アドレスを入力します。
- (3) 電力量計を接続した入力ボードの端子番号を選択します。例えば、入力ボード 1 の端子 2 に接続した場合は、[1-2] を選択します。
※入力ボードは 1 または 2 から、入力端子は 0~F から、実際にピークカット用に利用する電力量計が接続されている端子を選択してください。
- (4) 電力量計が出力するパルスの単位を入力します。例えば 1 パルス 0.1kWh の電力量計の場合、[0.1] を入力します。

お願い

パルス単位は使用する電力量計に合わせて設定してください。また、正常に設定されたことを確認するため、毎時 00 分、30 分の複数回、実際の電力量計のメーター値を確認した後、30 分間の電力量計のメーター値の増加量と、ピークカット制御平均電力が一致していることを必ずご確認ください。（ピークカット制御平均電力は管理者用ブラウザのピークカット制御グラフ及び、CSVファイルで確認できます。）

※ピークカット制御平均電力については「Web ブラウザ操作編（管理者用）」の 3-4-2 章をご参照ください。

(5) 電力利用範囲を各制御レベル（デマンドレベル）に割り当てます。

空調機への制御遅延等も考慮し、超えてはいけないデマンド値（30 分間の平均電力値）の 10%~15% 下の値をレベル 4 として設定し、残りの設定値を 10% 刻み程度で入力してください（上図は上限 200kW の例）。

※ 電力使用機器のシステム構成、室内環境により、最適な設定値はビルごとに異なります。各ビルの環境に合わせて設定値を決定してください。

(6) 省エネレベルが 0 のときに、設定温度と室内温度の差が開いている室内ユニットグループへは省エネ制御を実行しない機能を利用する場合は、ここで温度差を設定します。

省エネレベル 0 で何らかの省エネ制御をかけていて、かつ快適性も重視したい場合に設定します（3~9℃の中から選択）。

5-2-3 計量用計測コントローラを利用する場合

	電力計	アドレス 50-1 ピークカット用電力量計
	制御レベル	4 180 kW - 180 kW
		3 160 kW - 180 kW
		2 140 kW - 180 kW
		1 120 kW - 140 kW
		0 0 kW - 120 kW

3 °C: 設定温度と室内温度の差
この差以上になると、レベル 0 では、室内機の制御ま
行われません。

(1) ピークカット用電力量計を接続した計量用計測コントローラを選択します。

※計測設定画面で登録された電力量計のみ選択可能です。

お願い

ピークカット用電力量計のパルス単位は使用する電力量計に合わせて設定してください。また、正常に設定されたことを確認するため、実際の電力量計のメーター値と計量用計測コントローラがカウントした計量値を確認した後、一定時間経過後に両方とも同じ値だけ増加していることを必ずご確認ください。

（計量用計測コントローラがカウントした計量値は管理者用ブラウザで確認できます。）

(2) 電力利用範囲を各制御レベル（デマンドレベル）に割り当てます。

空調機への制御遅延等も考慮し、超えてはいけないデマンド値（30 分間の平均電力値）の 10%~15% 下の値をレベル 4 として設定し、残りの設定値を 10% 刻み程度で入力してください（上図は上限 200kW の例）。

※電力使用機器のシステム構成、室内環境により、最適な設定値はビルごとに異なります。各ビルの環境に合わせて設定値を決定してください。

(3) 省エネレベルが 0 のときに、設定温度と室内温度の差が開いている室内ユニットグループへは省エネ制御を実行しない機能を利用する場合は、ここで温度差を設定します。

省エネレベル 0 で何らかの省エネ制御をかけていて、かつ快適性も重視したい場合に設定します（3~9℃の中から選択）。

5-2-4 他の G-150AD に接続された電力量計を利用する場合

<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> デマンド入力 PLC PAC-YG41/42/43/91/92/93ATM <input type="checkbox"/> 電力量カウント PLC PAC-YG11/12/13ATM <input type="checkbox"/> 計量用計測コントローラ PAC-YG60MC <input checked="" type="checkbox"/> 他の G-150AD <input type="checkbox"/> 外部接点入力 <input type="checkbox"/> その他のシステム 	IPアドレス <input type="text" value="192"/> <input type="text" value="168"/> <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="1"/>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3 °C：設定温度と室内温度の差 この差以上になると、レベル0では、室内機の制御は行われません。</p> </div>

(1)ピークカット用電力量計を接続した計量用計測コントローラが接続されている G-150AD の IP アドレスを入力します。

※電力量計が接続された G-150AD に制御レベルを 1 分間隔でモニタするため、モニタ先の G-150AD に対して制御レベルが 1 分程度遅れて変化します。ピークカット電力を超えないよう、制御レベル値は余裕を持って設定してください。

※電力量計が接続された G-150AD に対し、最大 3 台の G-150AD が接続できます。システム全体の G-150AD が 5 台以上ある場合は、電力量カウント PLC 方式をご利用ください。

(2)省エネレベルが 0 のときに、設定温度と室内温度の差が開いている室内ユニットグループへは省エネ制御を実行しない機能を利用する場合は、ここで温度差を設定します。

省エネレベル 0 で何らかの省エネ制御をかけていて、かつ快適性も重視したい場合に設定します(3~9°C の中から選択)。

※他の G-150AD からの制御レベルのモニタ機能は外部接点入力の場合でも利用できます(5-2-5 外部接点入力を利用する場合)。

5-2-5 外部接点入力を利用する場合

<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> デマンド入力 PLC PAC-YG41/42/43/91/92/93ATM <input type="checkbox"/> 電力量カウント PLC PAC-YG11/12/13ATM <input type="checkbox"/> 計量用計測コントローラ PAC-YG60MC <input type="checkbox"/> 他の G-150AD <input checked="" type="checkbox"/> 外部接点入力 <input type="checkbox"/> その他のシステム 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3 °C：設定温度と室内温度の差 この差以上になると、レベル0では、室内機の制御は行われません。</p> </div>
---	---

(1)省エネレベルが 0 のときに、設定温度と室内温度の差が開いている室内ユニットグループへは省エネ制御を実行しない機能を利用する場合は、ここで温度差を設定します。

省エネレベル 0 で何らかの省エネ制御をかけていて、かつ快適性も重視したい場合に設定します(3~9°C の中から選択)。

お願い 拡張コントローラ (PAC-YG50EC) 接続時でも、集中コントローラ (G-150AD) の外部接点入力にデマンドレベルを入力してください。
拡張コントローラの外部接点入力はデマンドレベル入力には使えません。

5-2-6 その他のシステムを利用する場合(E-Energy 接続等)

<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> デマンド入力 PLC PAC-YG41/42/43/91/92/93ATM <input type="checkbox"/> 電力量カウント PLC PAC-YG11/12/13ATM <input type="checkbox"/> 計量用計測コントローラ PAC-YG60MC <input type="checkbox"/> 他の G-150AD <input type="checkbox"/> 外部接点入力 <input checked="" type="checkbox"/> その他のシステム 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3 °C：設定温度と室内温度の差 この差以上になると、レベル0では、室内機の制御は行われません。</p> </div>
---	---

(1)省エネレベルが 0 のときに、設定温度と室内温度の差が開いている室内ユニットグループへは省エネ制御を実行しない機能を利用する場合は、ここで温度差を設定します。

省エネレベル 0 で何らかの省エネ制御をかけていて、かつ快適性も重視したい場合に設定します(3~9°C の中から選択)。

5-2-7 室外ユニットの制御方法を設定する(全方式)

各省エネレベルでの室外ユニットへの省エネ制御を設定します。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラーが正常に接続されている状態で行ってください。

※シティマルチ機種の室外ユニットはM-NETアドレスが表示されます。A制御機種（スリム機種）はM-NETアドレスとグループ名が表示されます。

※A制御機種の室外ユニットはインバータ機種のみ設定が可能です。一定速機種には本設定は行わないでください。

室外ユニット制御内容 コピーボタン
設定内容をコピーします

EC1 EC2 EC3 拡張コントローラー系統選択部
設定する系統を選択します

制御レベル アドレス 51 コピー 貼り付け

制御レベル	最大運転能力					制御時間 (30分間のうち)				
4	100%	90%	80%	70%	60%	3	6	9	15	30
3	100%	90%	80%	70%	60%	3	6	9	15	30
2	100%	90%	80%	70%	60%	3	6	9	15	30
1	100%	90%	80%	70%	60%	3	6	9	15	30
0	100%	90%	80%	70%	60%	3	6	9	15	30

一括設定ボタン 一括設定
室外ユニットを一括で設定します

最大運転能力 制御時間
室外ユニットの運転能力の上限を選択します 制御する時間を選択します

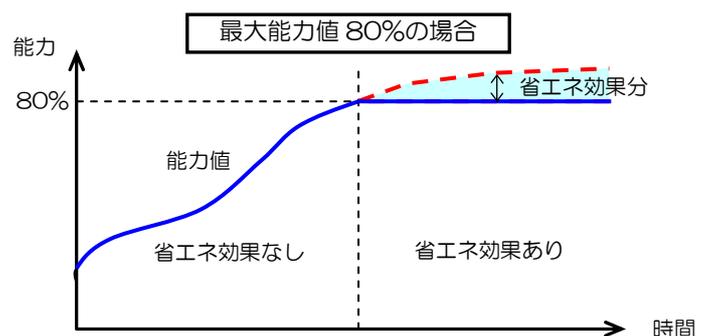
貼り付けボタン
コピーした内容を貼り付けます

(1)各レベルでの最大運転能力を設定します。

通常、室外ユニットは100%で動作しており、最大運転能力値が小さいほど、省エネ運転となります。

※室外ユニットの負荷が低く、指定された能力値以下で運転している場合は省エネ効果が出ませんのでご注意ください。

※蓄熱機種（ICE-Y）、マルチSへは室外ユニットへの能力セーブ制御を行わないように「100%」に設定してください。



(2)各レベルでの制御時間を設定します。室外ユニットへの能力セーブ制御の場合、短い設定時間での制御では効果が出にくくなりますので、30分、もしくは15分での制御を推奨します。

30分以外を設定した場合は、接続されている室外ユニットの中で、極力制御時間が重ならないよう、ローテーション制御を行います。

(3)ある室外ユニットの設定を、他の室外ユニットへコピーしたい場合は、[コピー]ボタンをクリックして選択状態（黄緑色）とし、対象の室外ユニットの画面で[貼り付け]をクリックします。

全ての室外ユニットを一括して設定したい場合は、[一括設定]をチェックし、設定内容を入力します。再度[一括設定]をクリックしてチェックを解除すると、個々の室外ユニットの設定が可能となります。

5-2-8 室内ユニットの制御方法を設定する(全方式)

各省エネレベルでの室内ユニットへの省エネ制御を設定します。

設定は操作ブロック単位となります。操作ブロックを設定していない場合、4-5 を参照して操作ブロックを設定してください。

室内ユニット制御内容

制御レベル

一括設定ボタン
室内ユニットを一括で設定します

コピーボタン
設定内容をコピーします

貼り付けボタン
コピーした内容を貼り付けます

制御レベル	制御方法	制御時間 (30分間のうち)
4	なし ±2°C 送風 停止	3 6 9 15 30
3	なし ±2°C 送風 停止	3 6 9 15 30
2	なし ±2°C 送風 停止	3 6 9 15 30
1	なし ±2°C 送風 停止	3 6 9 15 30
0	なし ±2°C 送風 停止	3 6 9 15 30

一括設定

制御方法
室内ユニットの制御方法を選択します

制御時間
制御する時間を選択します

(1)各レベルでの制御方法を設定します。

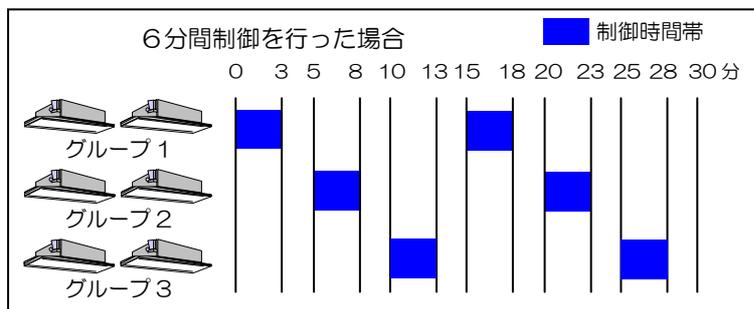
表 5-3 室内ユニット 制御方法

制御方法	内容
なし	制御を行いません
±2°C制御	冷房・ドライ：+2°C，暖房：-2°C（送風，自動中は制御なし） ※ 制御開始時刻に±2°Cシフトさせ，制御終了時刻に元の温度に戻します
送風制御	フリープラン室内ユニット，A制御スリム室内ユニットには能力セーブ0%制御(サーモOFF)，K制御室内ユニットや，フリープラン以前の機種へは送風運転制御を行います ※制御開始時刻にサーモOFFまたは送風モードに変化させ，制御終了時刻に元の状態に戻します ※ルームエアコンは送風制御には対応しておりません。他の制御をご利用ください
停止制御	室内ユニットを停止 ※制御開始時刻に停止を送信し，制御終了時刻に元の発停状態に戻します ※[30分][停止]を設定した場合，制御中グループに対しての運転操作は，どのコントローラからも行えません

(2)各レベルでの制御時間を設定します。

各制御時間は3分を1つの制御単位とし，6分を選択すると3分の制御が30分中，2回実行されます。

また，30分以外を設定した場合は，登録されている操作ブロックの中で，極力制御時間が重ならないよう，ローテーション制御を行います。



(3)ある操作ブロックの設定を，他の操作ブロックへコピーしたい場合は，[コピー] ボタンをクリックして選択状態（黄緑色）とし，対象の操作ブロックの画面で[貼り付け] をクリックします。

全ての操作ブロックを一括して設定したい場合は，[一括設定] をチェックし，設定内容を入力します。再度 [一括設定] をクリックしてチェックを解除すると，個々の操作ブロックの設定が可能となります。

(4)全ての設定が完了したら，設定保存ボタンをクリックして G-150AD に設定内容を送信します。

5-3 ET 制御設定を行う

ET 制御機能を利用したい場合は、メニューの[機能設定 1]—[ET 制御設定]をクリックして ET 制御設定画面を開き、室外ユニットごとに設定を行います。(工場出荷時は、有効に設定されています。)

ET 制御(Evaporating Temperature 制御)は、冷房運転時、従来は蒸発温度を一定に制御しているのに対して、負荷に応じて蒸発温度を上昇させ、圧縮機入力を低減することにより運転効率を向上させ省エネ運転をする室外ユニットの機能です。

※ET 制御機能がある室外ユニットが一覧表示されます。

※ET 制御機能設定利用時は、別途 E 制御ライセンスの登録が必要となります。ライセンスが正常に登録されていることを、オプション機能のライセンス登録画面(10章)でご確認ください。尚、E 制御ライセンス未登録の場合でも、G-150AD に設定を保存できます。設定は E 制御ライセンス登録時に有効になり、ET 制御機能が動作します。

※拡張コントローラー (PAC-YG50EC) 接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラーが正常に接続されている状態で行ってください。

※管理者ユーザーでログインした場合、操作が禁止されている場合があります。

※本設定は全てのユニットが正常に運転している状態で設定してください。室外ユニットの接続異常が発生している場合、ET 制御の対象ユニットが正常に表示されない場合があります。

※拡張コントローラーを接続して G-150AD を複数接続する場合は、いずれか 1 台で本設定を行ってください。また、接続する G-150AD は、全て Ver.3.00 以降としてください。

お願い

拡張コントローラー (PAC-YG50EC) 接続時、設定は拡張コントローラーを正常に接続している状態で行ってください。
拡張コントローラーと正常に接続していない状態で設定した場合、その拡張コントローラーの ET 制御設定は設定されません。

一括設定ボタン
全室外ユニットを一括して設定します

拡張コントローラー系統選択部
設定する系統を選択します

ET 制御設定
室外ユニットごと、有効/無効を選択します

設定保存ボタン
G-150AD および室外ユニットへ設定内容を送信します

アドレス
室外ユニットアドレスが表示されます

更新ボタン
G-150AD および室外ユニットから設定内容を読み込みます

(1) 室外ユニットごとに、[ET 制御設定]部で、有効、無効を選択します。

(2) 設定内容入力後、設定保存ボタンをクリックして G-150AD に設定内容を送信します。

※全ての室外ユニットを一括して設定したい場合は、[一括設定]ボタンをクリックし、有効/無効を選択します。

拡張コントローラー接続時は、各系統ごとに一括設定します。

5-4 アドバンストパワーセーブ設定を行う

アドバンストパワーセーブ機能を利用したい場合は、メニューの[機能設定1]—[アドバンストパワーセーブ]をクリックしてアドバンストパワーセーブ設定画面を開き、室外ユニットごとに設定を行います。(工場出荷時は、有効・制御レベル：なしに設定されています。)

アドバンストパワーセーブ機能は、室外機の使用電力量をセーブするもので、常時運転時の使用電力量を制限し、省エネ運転をすることができます。

※アドバンストパワーセーブ機能がある室外ユニットが一覧表示されます。

※アドバンストパワーセーブ機能利用時は、別途 E 制御ライセンスの登録が必要となります。ライセンスが正常に登録されていることを、オプション機能のライセンス登録画面(10章)でご確認ください。尚、E 制御ライセンス未登録の場合でも、G-150AD に設定を保存できます。設定は E 制御ライセンス登録時に有効になり、アドバンストパワーセーブ機能が動作します。

※拡張コントローラー (PAC-YG50EC) 接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラーが正常に接続されている状態で行ってください。

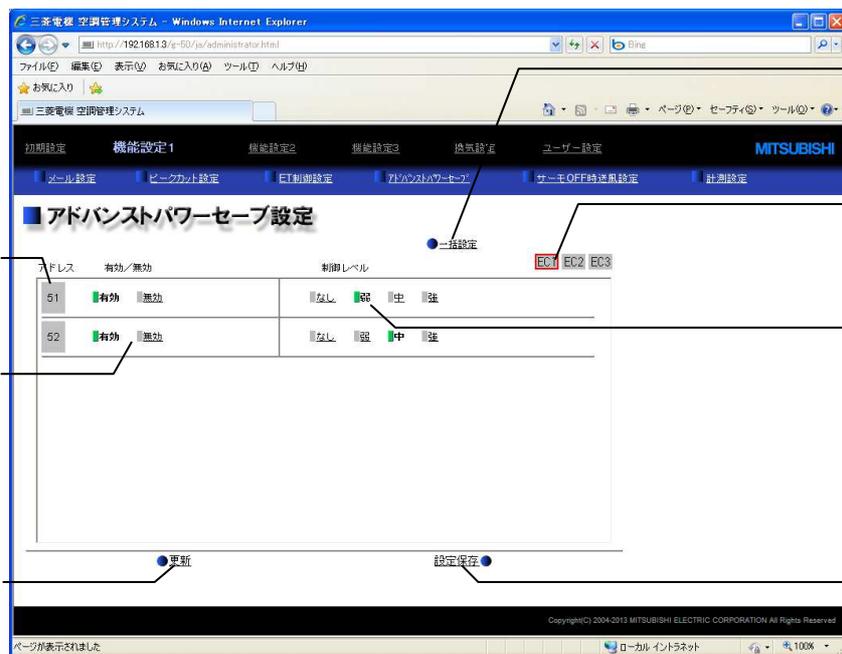
※管理者ユーザーでログインした場合、操作が禁止されている場合があります。

※本設定は全てのユニットが正常に運転している状態で設定してください。室外ユニットの接続異常が発生している場合、アドバンストパワーセーブ機能の対象ユニットが正常に表示されない場合があります。

※拡張コントローラーを接続して G-150AD を複数接続する場合は、いずれか 1 台で本設定を行ってください。また、接続する G-150AD は、全て Ver.3.10 以降としてください。

お願い

拡張コントローラー (PAC-YG50EC) 接続時、設定は拡張コントローラーを正常に接続している状態で行ってください。
拡張コントローラーと正常に接続していない状態で設定した場合、その拡張コントローラーのアドバンストパワーセーブは設定されません。



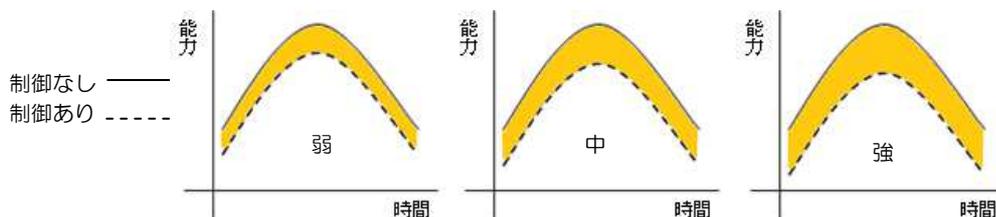
一括設定ボタン
全室外ユニットを一括して設定します

拡張コントローラー系統選択部
設定する系統を選択します
制御レベル設定部
制御レベルを選択します

設定保存ボタン
G-150AD および室外ユニットへ設定内容を送信します

アドレス
室外ユニットアドレスが表示されます
アドバンストパワーセーブ設定
室外ユニットごと、有効/無効を選択します
更新ボタン
G-150AD および室外ユニットから設定内容を読み込みます

- (1) 室外ユニットごとに、[アドバンストパワーセーブ設定]部で、有効、無効を選択します。
- (2) 室外ユニットごとに、[制御レベル設定]部で、制御レベルを[なし][弱][中][強]から選択してください。
[なし]は、制御を行いません。
[弱][中][強]の順に省エネ効果が増します。



- (3) 設定内容入力後、設定保存ボタンをクリックして G-150AD に設定内容を送信します。
※全ての室外ユニットを一括して設定したい場合は、[一括設定]ボタンをクリックし、設定内容を入力します。
拡張コントローラー接続時は、各系統ごとに一括設定します。

5-5 サーモ OFF 時送風設定を行う

サーモ OFF 時送風機能を利用したい場合は、メニューの[機能設定1]—[サーモ OFF 時送風設定]をクリックしてサーモ OFF 時送風設定画面を開き、室内ユニットごとに設定を行います。この機能は、室内ユニットのサーモ OFF 時にファンの送風運転を制御することで消費電力を低減させ省エネ運転をすることができます。

※サーモ OFF 時送風機能がある室内ユニットが一覧表示されます。

※サーモ OFF 時送風機能設定の利用時は、別途 E 制御ライセンスの登録が必要となります。ライセンスが正常に登録されていることを、オプション機能のライセンス登録画面（10章）でご確認ください。E 制御ライセンス未登録の場合、設定変更できません。

※形名の末尾が G1 の室内ユニット接続時に設定可能です。

※本機能を利用時は、室温検知センサーを外付けの温度センサー (PAC-SE40TS) やリモコンセンサーに切り換える必要があります。

※サーモ OFF 時送風機能によって省エネ制御中のマークは表示されません。

※拡張コントローラー (PAC-YG50EC) 接続時は、[拡張コントローラー系統選択部] で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。

※管理者ユーザーでログインした場合、操作が禁止されている場合があります。

※本設定は全てのユニットが正常に運転している状態で設定してください。室内ユニットの接続異常が発生している場合、サーモ OFF 時送風機能の対象ユニットが正常に表示されない場合があります。

※拡張コントローラーを接続して G-150AD を複数接続する場合は、いずれか 1 台で本設定を行ってください。

G-150AD は、全て Ver.3.00 以降としてください。

お願い

拡張コントローラー (PAC-YG50EC) 接続時、設定は拡張コントローラーを正常に接続している状態で行ってください。
拡張コントローラーと正常に接続していない状態で設定した場合、その拡張コントローラーのサーモ OFF 時送風設定は設定されません。

一括設定ボタン
全室内ユニットを一括して設定します

アドレス
室内ユニットアドレスが表示されます

冷房時設定
冷房時の動作を選択します

更新ボタン
G-150AD および室内ユニットから設定内容を読み込みます



拡張コントローラー
系統選択部
設定する系統を選択します

暖房時設定
暖房時の動作を設定します

設定保存ボタン
G-150AD および室内ユニットへ設定内容を送信します

(1)室内ユニットごとに、[冷房時設定]部で、冷房時にサーモ OFF したときの送風を、[リモコン設定風速][停止]から選択してください。

※[リモコン設定風速]とは、サーモ OFF 時に風速を切り換えることなく、通常操作で設定された風速で動作する設定です。

(2)室内ユニットごとに、[暖房時設定]部で、暖房時にサーモ OFF したときの送風を、[リモコン設定風速][弱風][微風][停止]から選択してください。

※機種により、微風・弱風を設定できない場合があります。

(3)設定内容入力後、設定保存ボタンをクリックして G-150AD に設定内容を送信します。

※全てのグループを一括して設定したい場合は、[一括設定]ボタンをクリックし、設定内容を入力します。拡張コントローラー接続時は、各系統ごとに一括設定します。

5-6 計測設定を行う

温度・湿度、電力量等を計測したい場合は、メニューの[機能設定1]ー[計測設定]をクリックして計測設定画面を開き、計測コントローラの接続設定を行います。

設定内容入力後は、設定保存ボタンをクリックしてG-150AD に設定内容を送信してください。

※拡張コントローラ（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラ系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。

※計測値を課金、省エネ（ピークカット）制御に利用する場合は、別途、電力按分課金支援ライセンス、省エネ制御（ピークカット）ライセンスの登録が必要となります。ライセンスが正常に登録されていることを、オプション機能のライセンス登録画面（10章）でご確認ください。

計測値の現在値表示やトレンドグラフ、上下限值警報はライセンスなしで利用できます。

※管理者ユーザーでログインした場合、操作が禁止されている場合があります。

※拡張コントローラを接続してG-150AD を複数接続する場合は、いずれか1台で本設定を行ってください。

お願い

拡張コントローラ（PAC-YG50EC）接続時、設定は拡張コントローラを正常に接続している状態で行ってください。
拡張コントローラと正常に接続していない状態で設定した場合、その拡張コントローラの計測設定は設定されません。

計測種別選択
計測（温湿度）または計量（電力量等）を選択します

アドレス
ユニットアドレスが表示されます

拡張コントローラ系統選択部
設定する系統を選択します

区切り文字選択
CSV ファイルの区切り文字を選択します

小数点文字選択
小数点の文字を選択します

トレンド間隔
データ保存間隔を選択します

更新ボタン
G-150AD から設定内容を読み込みます

計測設定
計測設定を行います

スクロールバー
アドレスを切り替えます

メール送信設定
計測値の上下限メール、トレンドメールのメールタイトル、送信先を設定します

設定保存ボタン
G-150AD へ設定内容を送信します

5-6-1 温度・湿度用の計測コントローラ(PAC-YG63MC)を登録する

使用する温度・湿度用センサーのシステム設定を行います。1台の環境用計測コントローラ（PAC-YG63MC）に対し、温度または湿度のセンサーが2個まで接続できます。

温度・湿度選択部

計測種別欄

アドレス

センサー1 (Ch1) 設定内容

センサー2 (Ch2) 設定内容

センサー名称

計測範囲

上下限警報値設定部

上限検知値 (発生)

上限解除値 (復旧)

下限解除値 (復旧)

下限検知値 (発生)

スクロールバー

(1) スクロールバーを操作し、環境用計測コントローラが接続されているアドレスを選択します。

(2) 計測種別欄から環境用計測コントローラのアイコン（）を選択します。

※環境用計測コントローラの接続を解除したい場合は、選択状態となっている環境用計測コントローラのアイコンを再度クリックし、選択を解除してください。

(3)各センサーの名称を入力します。

(4)接続したセンサーに合わせ、温度アイコン（）または湿度アイコン（）を選択します。

(5)接続したセンサーの温度範囲、または湿度範囲を入力します。

※Pt100 センサーを接続した場合は、-30℃～+60℃で設定してください。その他のセンサーの場合は各センサーの取扱説明書に記載されている範囲を入力してください。

(6)温度、湿度が一定値を超えたときに電子メールを送信したい場合、または環境用計量コントローラから警報連動出力をしたい場合は、上下限警報値設定部の上限検知値・解除値、下限検知値・解除値を設定します。電子メールは警報検知時、解除時に送信され、上限値のみの設定等も可能です。

※検知・解除を過度に検出しないよう、検知値と解除値の間は1℃程度離すことを推奨いたします。

5-6-2 温度・湿度用の計測値を補正する

センサーの設置位置等の影響で計測値の補正が必要な場合、以下の手順に従って補正を行います。

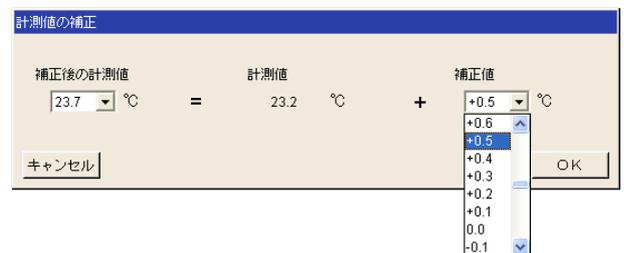
※現在の計測値、補正後の計測値は、環境用計測コントローラの接続設定が完了するまで表示されません。

初めて環境用計測コントローラを登録した場合は、[設定保存] ボタンをクリックして計測設定を送信した後、しばらくしてからメニューの[機能設定1]-[計測設定]をクリックして画面を再表示してください。

(1)センサー設定内容部の[補正]をクリックします。

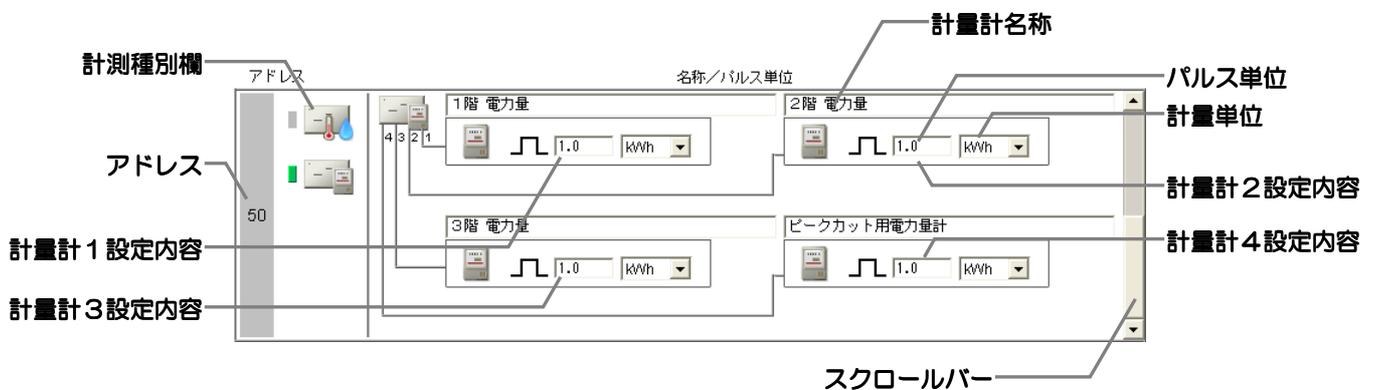
(2)[補正值]部で補正する値を選択するか、[補正後の計測値]部で補正後の値を選択します。

補正は -10.0～+10.0℃、-10.0～+10.0% の範囲で設定できます。



5-6-3 計量用の計測コントローラ(PAC-YG60MC)を登録する

電力量計、水道量計などの計量計を接続する場合のシステム設定を行います。1台の計量用計測コントローラ(PAC-YG60MC)に対し、計量計が4個まで接続できます。



(1)スクロールバーを操作し、計量用計測コントローラが接続されているアドレスを選択します。

(2)計測種別欄から計量用計測コントローラのアイコン（）を選択します。

※計量用計測コントローラの接続を解除したい場合は、選択状態となっている計量用計測コントローラのアイコンを再度クリックし、選択を解除してください。

(3)各計量計の名称を入力します。

(4)接続した計量計のパルス単位（1パルスあたりの計量値）、計量単位を設定します。

※計量単位は、[kWh][m³][MJ][--（単位なし）]から選択できます。

※使用しない計量計は計量単位欄で空白を選択してください。

お願い

パルス単位は使用する計量計に合わせて設定してください。

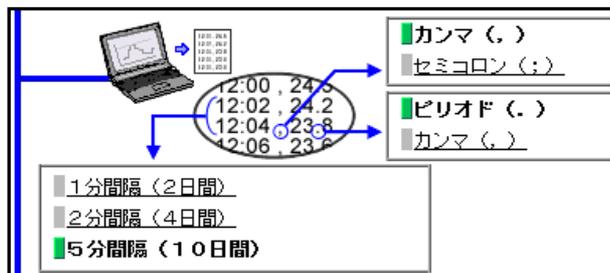
また、正常に設定されたことを確認するため、実際の計量計のメーター値と計量用計測コントローラがカウントした計量値を確認した後、一定時間経過後に両方とも同じ値だけ増加していることを必ずご確認ください。

（計量用計測コントローラがカウントした計量値は管理者用ブラウザで確認できます。）

5-6-4 トレンドデータ形式を設定する

計測値のトレンドグラフデータをダウンロードまたはメール送信する場合のデータ形式を設定します。

- (1)区切り文字を [カンマ (,)] または [セミコロン (;)] から選択します。
- (2)小数点文字を [ピリオド (.)] または [カンマ (,)] から選択します。
- (3)トレンドデータ間隔を [1 分間隔 (2日間)] [2 分間隔 (4日間)] [5分間隔 (10日間)] の中から選択します。データ間隔により、トレンドグラフ画面に表示可能な日数が変化します。

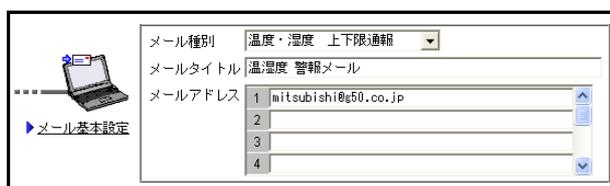


5-6-5 温度・湿度の上下限警報メール送信先を設定する

温度・湿度の値が一定値を超えたときにメールを送信したい場合、上下限警報メールの送信設定を行います。

- (1)メール種別で [温度・湿度 上下限警報] を選択し、メールタイトル、送信先メールアドレスを入力します。

※メールタイトル、メールアドレスには <> & “ ’ の文字は利用できません。



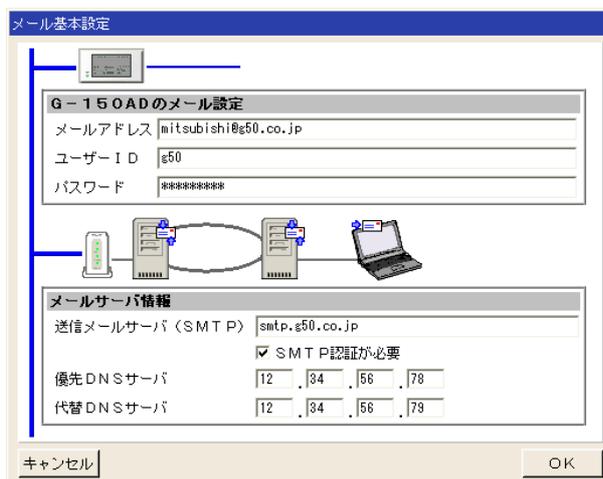
警報発生時に送信されるメールは、以下のフォーマットとなります。

```
送信元: 三菱ビル (000001)
発生日時: 2007/03/31 19:13:42
アドレス: 22-1
現在値: 23.1 °C
状態: 上限値超過
過去の推移:
19:13 22.9 °C
19:12 22.7 °C
19:11 22.3 °C
19:10 21.3 °C
19:09 20.6 °C
19:08 20.2 °C
19:07 20.4 °C
19:06 20.2 °C
19:05 20.5 °C
19:04 20.2 °C
```

項目	フォーマット
送信元	G-150AD の名称+識別番号 ※G-150AD の名称と識別番号の設定方法は 4-2-1 章参照
発生日時	yyyy/MM/dd hh:mm:ss ※日付フォーマットは 4-2-5 (基本システム画面) で設定した内容が反映されます
アドレス	[環境用計測コントローラの M-NET アドレス]-[センサー番号] ※拡張コントローラーが接続されている場合は、 [拡張コントローラー番号]-[環境用計測コントローラの M-NET アドレス]-[センサー番号] となります。
現在値	現在の温度または湿度 (小数点 1 桁) ※センサー値が安定するまでの間、現在値が [***] で送信されることがあります。
状態	“上限値超過”または“上限値復旧”または“下限値超過”または“下限値復旧”
過去の推移	時刻+温度または湿度 (過去 10 分間)

- (2) [メール基本設定] をクリックし、メールサーバ情報を設定します。

※5-1-1, 5-1-2 で設定されたメール基本設定と共通になります。設定内容の詳細は 5-1-1, 5-1-2 章をご参照ください。



5-6-6 温度・湿度のトレンドデータのメール送信先を設定する

1日に1回（日替わり時），温度，湿度のトレンドデータをメールで送信したい場合，トレンドデータのメール送信設定を行います。トレンドデータはメールの添付ファイルとして CSV ファイル形式で送信されます（メールの本文は空欄です）。

- (1)メール種別で [トレンドデータ] を選択し，メールタイトル，送信先メールアドレスを入力します。

※メールタイトル，メールアドレスには <> & “ ’ （半角）の文字は利用できません。



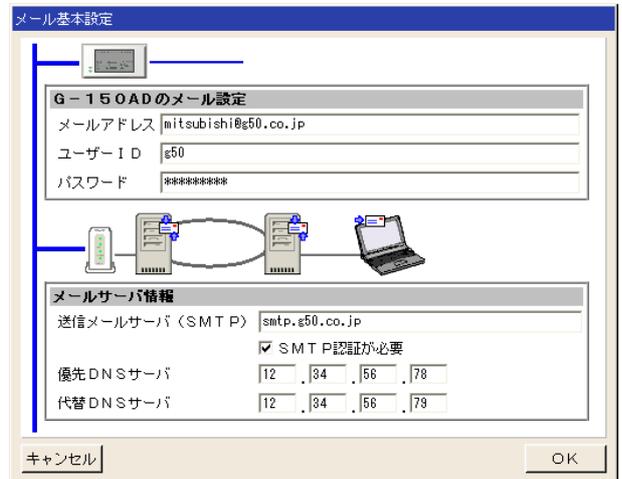
日替わり時に送信されるメールに添付されるトレンドデータファイルは，以下のフォーマットとなります。

```
121
2007/01/19
アドレス 50-1
時刻,温度 (°C)
00:00,20.3
00:05,20.1
00:10,19.8
00:15,19.3
:
23:50,18.8
23:55,18.5
```

項目	フォーマット
ファイル区分	121：温度データ，122：湿度データ
日付	yyyy/MM/dd ※日付フォーマットは 4-2-5章で設定した内容が反映されます
アドレス	[環境用計測コントローラの M-NET アドレス]-[センサー番号] ※拡張コントローラーが接続されている場合は， [拡張コントローラー番号]-[環境用計測コントローラの M-NET アドレス]-[センサー番号] となります。
データ項目	”時刻,温度 (°C)”または”時刻,湿度 (%)”
計測データ	時刻,計測データ ※データ間隔，区切り文字，小数点文字は 5-3-4 章で設定した内容が反映されます

- (2) [メール基本設定] をクリックし，メールサーバ情報を設定します。

※5-1-1，5-1-2 で設定されたメール基本設定と共通になります。設定内容の詳細は 5-1-1，5-1-2 章をご参照ください。



6 機能設定2

6-1 リモコンの設定温度範囲を制限する

手元リモコンの設定温度の操作範囲を制限したい場合は、メニューの[機能設定2]→[設定温度範囲制限]をクリックして設定温度範囲制限画面を開き、各リモコンの温度範囲を設定します。冷房時の設定温度下限値、暖房時の上限値を設定しておくことで、各ユーザーの操作が制限され、省エネ効果が期待できます。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。

※設定温度の操作範囲制限は下記リモコンに対して利用可能です。※1

ME リモコン（PAR-F27ME）	：冷房下限値，暖房上限値
ME リモコン（PAR-F28ME， PAR-F29ME， PAR-F29ME(1)）	：冷房上下限，暖房上下限，自動上下限
MA スムースリモコン（PAR-22MA， PAR-24MA， PAR-26MA， PAR-26MA(1)）※2	：冷房上下限，暖房上下限，自動上下限
MA スマートリモコン（PAR-30MA～PAR-34MA）※2	：冷房上下限，暖房上下限，自動上下限
MA テラックスリモコン（PAC-YT35ST， PAC-YT37ST）※2	：冷房上下限，暖房上下限，自動上下限
MA コンパクトリモコン（PAC-YT51CR）※2	：冷房上下限，暖房上下限，自動上下限

※1：設定可能な運転モードは機種により異なります。

※2：室内ユニットの機種により、本機能が利用できない場合があります。

※A制御機種（スリム機種），ルームエアコン機種では本機能は利用できません。但し，ME リモコンを接続した時は，利用可能です。

※ブラウザ操作画面（管理者用），G-150AD 本体の操作画面，および TG-2000 の操作画面では本設定に関わらず，全ての設定温度範囲が操作可能です（個人用ブラウザの操作画面では，この設定温度範囲が有効となります）。

※管理者ユーザーでログインした場合，操作が禁止されている場合があります。

※拡張コントローラーを接続して G-150AD を複数接続する場合は，いずれか 1 台で本設定を行ってください。

お願い 拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時，設定は拡張コントローラーを正常に接続している状態で行ってください。
 拡張コントローラーと正常に接続していない状態で設定した場合，その拡張コントローラーに接続されているリモコンの温度範囲は設定されません。



グループ番号，グループ名
グループ番号，グループ名が表示
されます

一括設定ボタン
全グループ一括して設定します

拡張コントローラー
系統選択部
設定する系統を選択します

コピーボタン
設定内容をコピーします

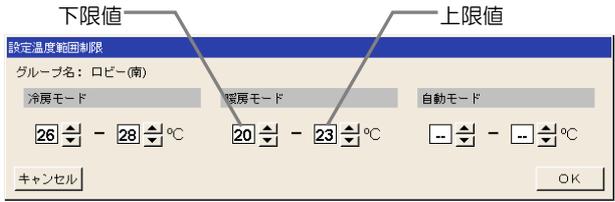
貼り付けボタン
コピーした内容を貼り付けます

設定温度範囲表示
設定温度範囲を表示します

更新ボタン
G-150AD から設定内容を読み
込みます

設定保存ボタン
G-150AD へ設定内容を送信し
ます

(1) 設定温度範囲表示部をクリックすると，内容を設定する画面が表示されますので，冷房，暖房，自動各モードの設定温度範囲を設定し，[OK] ボタンをクリックして元の画面に戻ります。



(2) 設定内容入力後，設定保存ボタンをクリックして G-150AD に設定内容を送信します。
 ※あるグループの設定を，他のグループへコピーしたい場合は，[コピー] ボタンをクリックして選択状態（黄緑色）とし，対象のグループで [貼り付け] をクリックします。
 ※全てのグループを一括して設定したい場合は，[一括設定] ボタンをクリックし，設定内容を入力します。

6-2 室外ユニットのナイトモード時間帯を設定する

室外ユニットをナイトモード（低騒音運転）に切り換えたい場合は、メニューの[機能設定2]-[ナイトモードスケジュール]をクリックしてナイトモードスケジュール画面を開き、ナイトモードで運転する時間帯を設定します。

夜間のみ室外ユニットの運転を低騒音化したい場合などにご利用ください。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラーが正常に接続されている状態で行ってください。

※本設定は全てのユニットが正常に運転している状態で設定してください。室内ユニット、室外ユニットの接続異常が発生している場合、ナイトモード対象ユニットが正常に表示されない場合があります。

※ナイトモード運転により低減される騒音値は、機種により異なります。

※管理者ユーザーでログインした場合、操作が禁止されている場合があります。

※拡張コントローラーを接続してG-150ADを複数接続する場合は、いずれか1台で本設定を行ってください。

(1) [ナイトモード開始時刻] [ナイトモード終了時刻] に、ナイトモード運転を行いたい時間帯を入力します。

※開始時刻と終了時刻が同一である場合、常時、ナイトモード運転を行います。

(2) ナイトモード運転を行う室外ユニットを [ナイトモード対象ユニット] から選択します。

※対象ユニット欄には、各室外ユニットのM-NET アドレス番号が表示されます。

(3) 設定内容入力後、設定保存ボタンをクリックしてG-150ADに設定内容を送信します。

6-3 自動冷暖切換え機能を利用する

同一の室外ユニットに接続されている全ての室内ユニットの運転モード（冷房・暖房）を、室温の変化により自動的に切り換えたい場合は、メニューの[機能設定2]－[オートチェンジオーバー]をクリックしてオートチェンジオーバー画面を開き、切換モードを設定します。

運転モードに[自動]の無い機種（Y シリーズ）を利用して、朝のうちは暖房を入れ、午後に一齐に冷房に切り換えたい季節などにこの機能をご利用ください。暖房運転しているユニット全てを自動的に冷房運転に切り換えることができますので、手動で全てのリモコンを冷房に切り換える必要がありません。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラーが正常に接続されている状態で行ってください。

※切換モードを[自動]に設定した場合は各室内ユニットの能力値を考慮した多数決方式で、[代表グループ]に設定した場合は選択したグループの状態によって、15分に1回、冷房または暖房を判断し、運転モードを切り換えます。

なお、多数決または特定グループの状態で運転モードが決定されるため、寒い場所、暑い場所が生じる場合があります。

※管理者ユーザーでログインした場合、操作が禁止されている場合があります。

※冷暖同時機種（R2 シリーズ）は室内ユニットの運転モードを[自動]にご利用ください（この画面で自動冷暖切換えを設定する必要はありません）

※拡張コントローラーを接続してG-150ADを複数接続する場合は、いずれか1台で本設定を行ってください。

拡張コントローラー系統選択部
設定する系統を選択します

対象室外ユニット
室外ユニットの M-NET アドレスが表示されます

切換モード
切換モードを選択します

更新ボタン
G-150AD から設定内容を読み込みます

所属グループ
室外ユニットに接続されているグループの名称が表示されます
[代表グループ] モードを選択した場合、この中から代表グループを選択します

設定保存ボタン
G-150AD へ設定内容を送信します

- (1)対象室外ユニットの切換モードを選択します。[代表グループ] モードを選択した場合は、所属グループから代表となるグループを選択します。

表 6-1 切換モード一覧

切換モード	内容
なし	自動切換を行わない場合に選択します
自動	室外ユニットに接続された全ての室内グループの設定温度と室温の差、および室内グループに含まれる各室内ユニットの能力値を考慮して運転モード（冷房・暖房）を切り換えます ※停止しているグループ、送風・自動モードで運転しているグループは運転モードを切り換えません
代表グループ	代表グループの設定温度と室温の差で運転モード（冷房・暖房）を切り換えます ※代表グループの空調機が停止している場合、および運転モードが送風・自動モードの場合は、代表グループモードではなく、自動切換モードにて制御します

- (2)設定内容入力後、設定保存ボタンをクリックしてG-150ADに設定内容を送信します。

7 機能設定3

7-1 外気温連動制御を利用する

外気温連動制御を利用したい場合は、メニューの[機能設定3]-[外気温連動制御]をクリックして外気温連動制御画面を開き、外気温度に連動して設定温度を変化させたい空調グループを設定します。

この制御を建物入口の空調機に設定しておくことで外部から建物内に入ったときの温度差が小さくなり、急激な温度差による身体への負担（ヒートショック）を軽減することが可能となります。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラーが正常に接続されている状態で行ってください。

※外気温度は当社製環境用計測コントローラ（PAC-YG63MC）を接続し、計測してください。

※本機能は運転モードが[冷房] [ドライ] で運転している場合に動作を行います。

※拡張コントローラーを接続してG-150ADを複数接続する場合は、いずれか1台で本設定を行ってください。

外気温計測ユニット
外気温を計測しているセンサーを選択します

グループ番号, グループ名
グループ番号, グループ名が表示されます

更新ボタン
G-150AD から設定内容を読み込みます

拡張コントローラー系統選択部
設定する系統を選択します

設定温度の変化幅
外気温に連動して最大何℃まで設定温度を変化させるかを設定します

設定保存ボタン
G-150AD へ設定内容を送信します

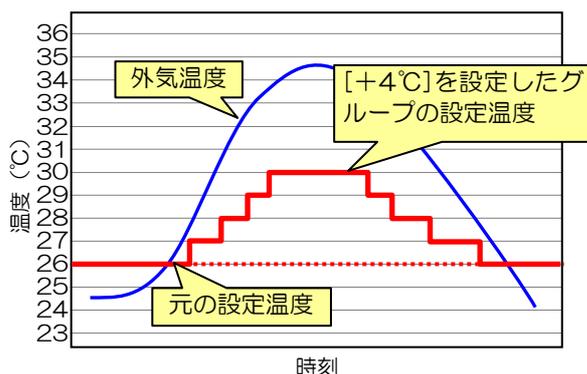
(1) 外気温計測ユニット部をクリックし、外気温センサーを接続しているセンサーを選択します。選択部には [計測コントローラアドレス+センサー番号+センサー名称] の形式で表示されます。

※拡張コントローラーが接続されている場合は、[計測コントローラアドレス] 部が [アドレス+拡張コントローラー番号+M-NET アドレス] の形式で表示されます。

(2) 各空調グループに外気温度に連動して最大何度まで設定温度を変化させるかを設定します。例えば [+4℃] を選択した場合、元の設定温度が26℃のときは、外気温の上昇に合わせて最大30℃まで設定温度が変化します。 [+2℃] を選択した場合は最大28℃まで設定温度が変化します。

(3) 設定内容入力後、設定保存ボタンをクリックしてG-150AD に設定内容を送信します。

外気温連動制御を設定した空調グループは、下図のように外気温の上昇に伴って空調機の設定温度が徐々に上昇し、外気温が下がってくると徐々に元の設定温度に戻ります。



外気温度	設定温度
外気温度 \geq 元の設定温度 + 1.5℃	元の設定温度 + 1℃
外気温度 \geq 元の設定温度 + 4.5℃	元の設定温度 + 2℃
外気温度 \geq 元の設定温度 + 6.5℃	元の設定温度 + 3℃
外気温度 \geq 元の設定温度 + 7.5℃	元の設定温度 + 4℃

7-2 セットバック制御を利用する

セットバック制御を利用したい場合は、メニューの[機能設定3]-[セットバック制御]をクリックしてセットバック制御画面を開き、一定温度範囲内で制御したい空調グループを設定します。

この制御を行うことで、設定した時間内に一定の温度範囲から室温が外れたときに自動的に暖房または冷房を行い、室内の露付きや過度の温度上昇を防止します。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラーが正常に接続されている状態で行ってください。

※本制御では、セットバック対象空調グループが[停止]かつ[下限温度を超過]した場合に暖房運転を開始します。また[停止]かつ[上限温度を超過]した場合に冷房運転を開始します。なお、セットバック制御中に手元リモコンで[運転/停止][運転モード][設定温度]を変更した場合はその状態を維持し、セットバック制御前の状態には戻しません（自動停止も行いません）。

※室温を空調機の吸込み温度センサーで計測している場合、空調機停止中は内部に空气がこもり、実際の室温と相違がでる場合があります。実際の室温が正常に取得できていない場合は、室温検知位置を外付けの温度センサー（PAC-SE40TS）やリモコンセンサーに切り換えてご利用ください。

※拡張コントローラーを接続してG-150ADを複数接続する場合は、いずれか1台で本設定を行ってください。



セットバック利用有無
セットバック制御を利用するかしないかを選択します

セットバック制御時間
セットバック制御を有効とする時間帯を設定します

グループ番号、グループ名
グループ番号、グループ名が表示されます

更新ボタン
G-150AD から設定内容を読み込みます

拡張コントローラー系統選択部
設定する系統を選択します

制御温度範囲
セットバック制御で用いる下限温度、上限温度を設定します

設定保存ボタン
G-150AD へ設定内容を送信します

(1) セットバック利用有無部で [利用する] を選択し、セットバック制御を有効とする時間帯を設定します。

※ [00:00~00:00] を設定した場合、常時（24 時間）セットバック制御が有効となります。

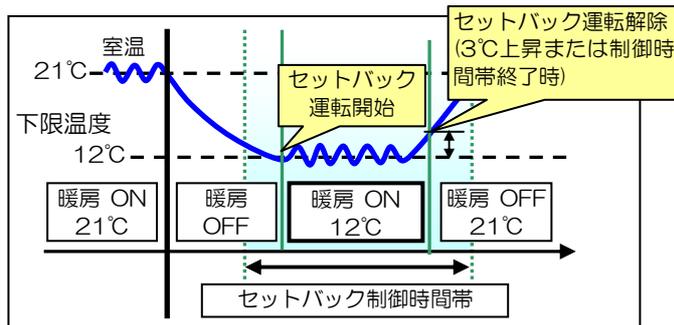
(2) 空調グループごとに制御温度範囲（下限値、上限値）を設定します。例えば [08:00~17:00] [--℃~--28℃] と設定すると、8:00~17:00 の間に室温が 28℃を上回った場合に設定温度を 28℃として自動的に冷房運転を開始します。制御終了時間の 17:00 になると元の設定温度に戻して空調機を停止します。

※上限温度を上回ってセットバック運転を行っている場合、セットバック制御時間が終了したとき、または室温が上限温度-3℃以下となったときにセットバック制御を解除し、空調機を停止して元の設定温度に戻します。同様に下限温度を下回ってセットバック運転を行っている場合は、セットバック制御時間が終了したとき、または室温が下限温度+3℃以上になったときに空調機を停止して元の設定温度に戻します。

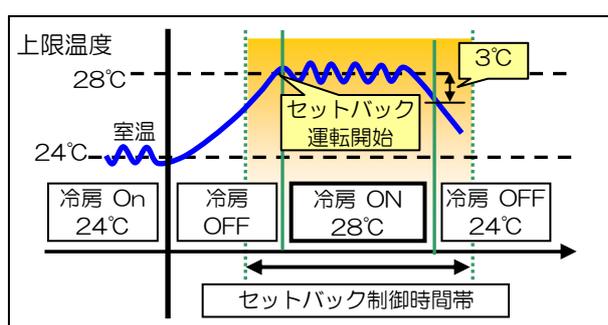
※あるグループの設定を、他のグループへコピーしたい場合は、[コピー] ボタンをクリックして選択状態（黄緑色）とし、対象のグループで [貼り付け] をクリックします。

(3) 設定内容入力後、設定保存ボタンをクリックして G-150AD に設定内容を送信します。

セットバック制御を設定した空調グループは、下限、上限温度を超えた場合に自動的に運転を開始します。また、下限、上限温度から 3℃以上戻った場合に自動的に空調機を停止します。



下限温度超過時（暖房制御）



上限温度超過時（冷房制御）

7-3 連動制御を利用する

連動制御を利用したい場合は、メニューの[機能設定3]—[連動制御]をクリックして連動制御画面を開き、連動条件や連動動作の設定を行います。

設定内容入力後は、設定保存ボタンをクリックしてG-150ADに設定内容を送信してください。

※連動制御は、別途連動制御ライセンスの登録が必要となります。ライセンスが正常に登録されていることを、オプション機能のライセンス登録画面（10章）でご確認ください。

全行削除
すべての設定を削除します。

連動元種別の選択
連動元種別を選択します。

連動制御実行選択
連動制御を実行するかしないかを選択します

有効/無効選択
個別条件の有効/無効を選択します。

連動条件1
連動条件1を選択します。

連動条件2
連動条件2を選択します。

連動元機器の選択
連動元ユニットを選択する画面を表示します。

更新ボタン
G-150AD から設定内容を読み込みます

連動先種別選択
連動先種別を設定します。

編集ボタン
1行挿入・1行削除・表示クリア・コピー・貼付け操作を行います。

状態バー
150条件の設定状態（設定あり（緑）、不完全設定あり（赤））を表示します。

連動動作の設定
連動条件成立時の動作を選択します。

連動先機器の選択
連動先機器を選択する画面を表示します。

スクロールバー
条件を切り替えます

設定保存ボタン
G-150ADへ設定内容を送信します

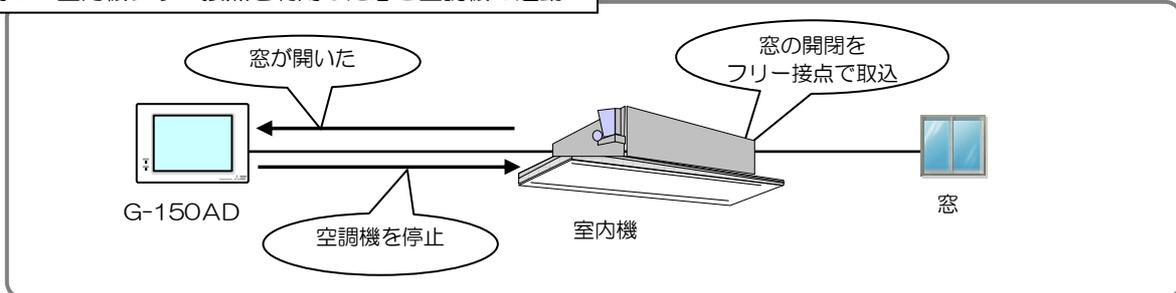
連動条件は150件まで設定可能です。

連動制御では3～5秒毎にNo.1～150の順に状態変化判定を行い、条件に一致した場合に連動先機器に設定された連動動作を指令します。

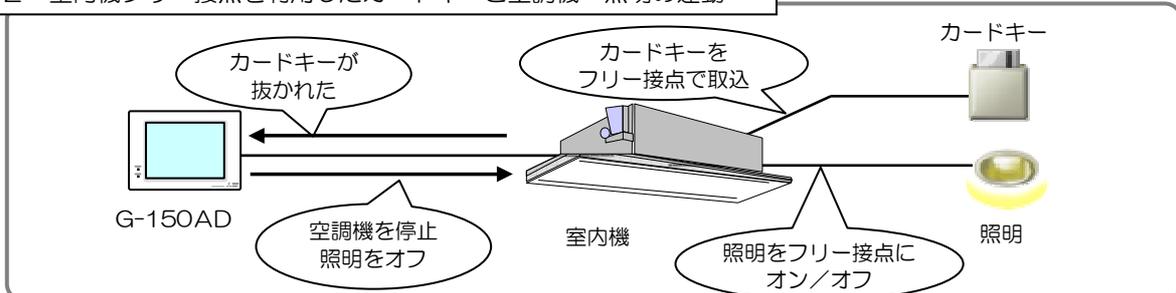
連動制御機能を利用する場合は、G-150ADに『連動制御』ライセンスを登録し、連動条件設定No.1～150の連動元種別、連動条件、連動元機器、連動先種別、連動動作、連動先機器を設定することによりG-150ADに接続されている機器を連動制御させることができます。

設定により下のような各種連動制御を行うことができます。

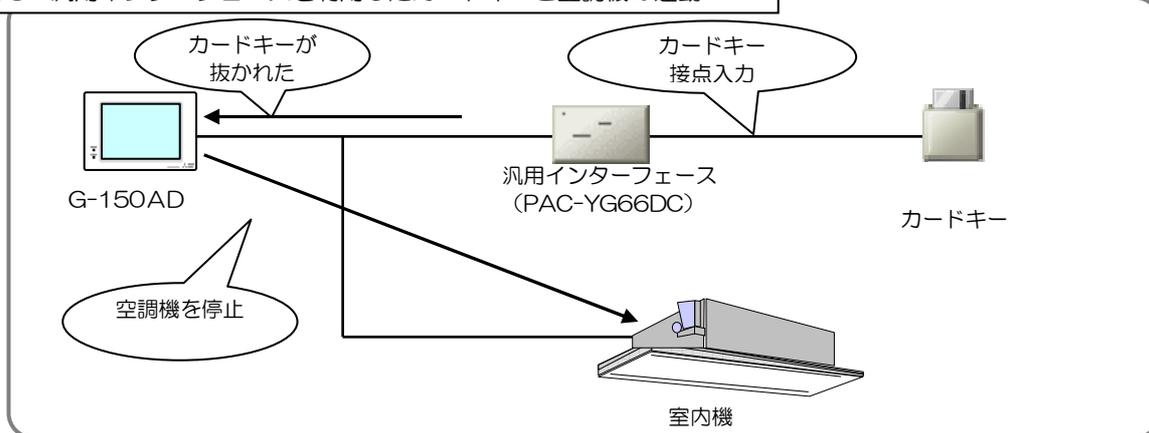
例1：室内機フリー接点を利用した窓と空調機の連動



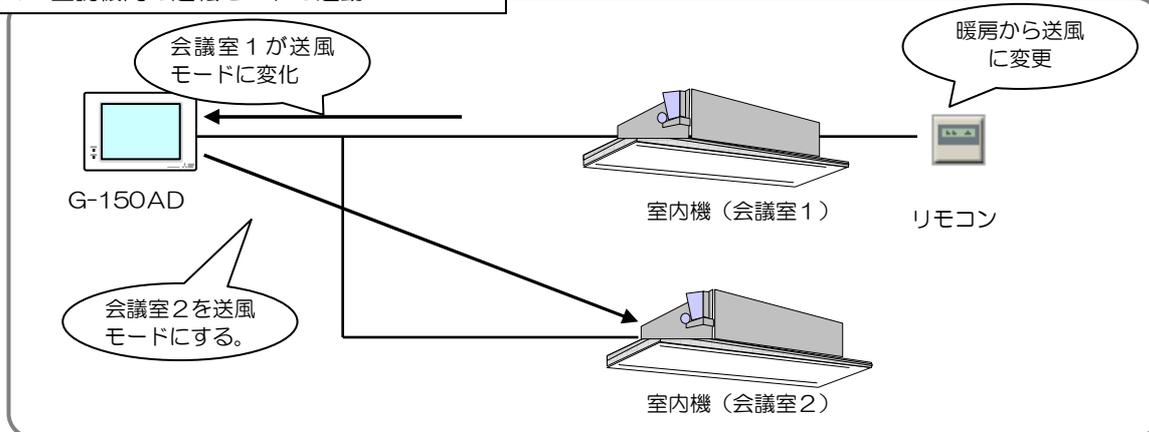
例2：室内機フリー接点を利用したカードキーと空調機・照明の連動



例 3：汎用インターフェースを利用したカードキーと空調機の連動



例 4：空調機間の運転モードの連動



- ※連動条件が成立した場合の指令処理には時間がかかるため、3～5秒毎の状態変化判定に遅延が発生することがあります。スケジュール実行や省エネ制御などその他の制御が同時に実行された場合、連動制御に遅延が発生することがあります。拡張コントローラ（PAC-YG50EC）接続時、拡張コントローラとの通信により連動制御に10秒以上遅延が発生することがあります。例えば拡張コントローラを使用して150台の空調機を一括運転した場合1分程度の遅延が発生することがあります。連動制御を使用する際には、これらの遅延を考慮してシステム設計を行ってください。
- ※汎用機器の接点入力を連動元とする場合、登録している汎用機器のグループ設定画面で汎用機器表示設定を「接点入力状態」にしてください。（4-3-3参照）
- ※外部入力にて運転/停止モード（レベル入力）（4-2-2-3参照）を選択している場合は一切の連動制御を行いません。
- ※省エネ制御・ピークカット制御中（5-2参照）の停止制御中は室内機のフリー接点・汎用インターフェース（PAC-YG66DC）以外の連動制御は行いません。
- ※管理者ユーザーでログインした場合、操作が禁止されている場合があります。
- ※フリー接点は R410a 対応の室内機、または R407c 対応室内機の SW バージョン 33 以降で利用できます。室内機の SW バージョンはメンテナンスツールにて確認できます。
- ※拡張コントローラを接続して G-150AD を複数接続する場合は、いずれか 1 台で本設定を行ってください。
- ※グループを削除または統合する場合は、連動制御設定からも削除されるグループに対する設定を削除してください。削除せずに設定した場合、予期せぬ動作をする場合があります。

注意

- 防災による制御、セキュリティに対する制御には、運用上使用しないでください。使用する場合は、必ず他の手段でカバーできるようにしてください。特に、人命に関わるような用途には、使用しないでください。

お願い

- 連動制御機能は、G-150AD 等の機器が故障すると制御できません。この場合を考慮して、応急運転停止できるようにスイッチなどの回路を設けてください。
- 下記のように永遠に循環するような条件設定を行わないでください。
 条件 1: Group1 が ON したら Group1 を OFF
 条件 2: Group1 が OFF したら Group1 を ON
 例のような設定を実行すると永遠に ON と OFF を繰り返すことにより、空調機が故障することがあります。

7-3-1 連動条件を設定する

連動条件は1～150まで最大150件設定可能です。以下の手順で設定を行ってください。

(1) 連動元種別・連動条件を設定する。

表 7-1 連動元種別毎の連動条件・機器選択単位

連動元種別	連動元 アイコン	連動条件(イベント)		選択単位
		連動条件1	連動条件2	
グループ (運転/停止)		すべて運転 すべて停止 1グループ以上運転 1グループ以上停止	-	グループ
グループ (運転モード)		すべて指定のモード すべて指定のモード以外 1グループ以上指定のモード 1グループ以上指定のモード以外	冷房,ドライ, 送風,暖房,自動, 普通換気(換気機器) 熱交換換気(換気機器) 自動換気(換気機器)	グループ
グループ (異常/復旧)		すべて異常 すべて復旧 1台以上異常 1台以上復旧	-	グループ
フリー接点 (ON/OFF)		すべてON すべてOFF 1点以上ON 1点以上OFF	-	ユニット (接点)

※連動先機器が連動する条件(イベント)は、連動元機器に以下の状態変化が発生したときに発生します。

グループ(運転/停止)選択時のときの例

[すべて運転]選択時は、[1グループ以上停止]の状態から[すべて運転]の状態に変化したときにのみイベントが発生します。

[すべて停止]選択時は、[1グループ以上運転]の状態から[すべて停止]の状態に変化したときにのみイベントが発生します。

[1グループ以上運転]選択時は、[すべて停止]の状態から[1グループ以上運転]の状態に変化したときにのみイベントが発生します。

[1グループ以上停止]選択時は、[すべて運転]の状態から[1グループ以上停止]の状態に変化したときにのみイベントが発生します。

(G-150AD 電源オン時は状態が一致している場合でも、状態変化なしとしてイベントは発生しません。)

※連動元機種の種類(グループ(運転/停止)、グループ(異常/復旧))を選択した場合、連動元機器の選択では、空調機、換気機器、汎用インターフェース(PAC-YG66DC)のグループを選択できます。

※1つの連動条件では、連動元機器に異なる種類のグループ(空調機、換気機器、汎用インターフェース(PAC-YG66DC))を同時に選択しないで下さい。

※連動元機種の種類(グループ(運転モード))を選択した場合、空調機の運転モード(冷房、ドライ、送風、暖房、自動)と換気機器の運転モード(普通換気、熱交換換気、自動換気)がすべて表示されます。実際の連動元機器(空調機、換気機器)で使用できない運転モードを設定した場合は連動条件が成立しません。

※連動元機種の種類(グループ(運転モード))を選択した場合、連動元機器の選択で汎用インターフェース(PAC-YG66DC)のグループは選択できません。

※1つの連動条件では連動元種別を複数選択できません。

(2) 連動元機器を設定する。

[連動元機器の選択]をクリックして連動元機器を設定してください。

表 7-1 の選択単位によって以下の連動元機器設定画面が表示されます。

(2-1) 選択単位がグループの場合

登録したいユニット番号をクリックし、選択状態（黄緑色表示）にします。

選択を解除したい場合は、再度クリックすることで非選択状態（灰色表示）に戻ります。

ブロック単位で空調機を登録したい場合は、[ブロック選択]をクリックするとブロック選択画面が表示されます。次に登録したいブロックを選択することによりそのブロックに登録されている空調機が選択状態（黄緑色表示）になります。[選択解除]をクリックすることにより選択されているグループがすべて未選択になります。

※拡張コントローラ（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラシステム選択部]でシステムを選択し、各システムごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラが正常に接続されている状態で行ってください。



(2-2) 選択単位がユニットの場合

登録したい汎用機器が接続されてる室内機のアドレス番号をクリックして選択状態（赤枠表示）にし、汎用機器が接続されている接点番号を選択します。

※拡張コントローラ（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラシステム選択部]でシステムを選択し、各システムごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラが正常に接続されている状態で行ってください。



(3) 連動先種別、連動動作を設定する。

表 7-2 に従って連動先機器の種別と連動動作を設定します。

表 7-2 連動先種別毎の連動動作・選択単位

連動先種別	連動先アイコン	連動動作		選択単位
		項目	選択項目	
グループ		運転/停止	運転 停止	グループ
		運転モード	(空調機) 冷房 ドライ 送風 暖房 自動 (換気機器) 普通換気 熱交換換気 自動換気	
		設定温度	8~30℃ (冷房、ドライ) 8~28℃ (暖房、自動)	
		風向	垂直 斜め2 斜め1 斜め0 水平 スイング 自動	
		風速	弱 中1 中2 強 自動	
		リモコン操作禁止 (ON/OFF)	現状維持 許可 禁止	
		リモコン操作禁止 (運転モード)	現状維持 許可 禁止	
		リモコン操作禁止 (温度設定)	現状維持 許可 禁止	
フリー接点		ON/OFF	ON OFF	ユニット (接点)

※連動先機種別のグループを選択した場合、連動先機器の選択では、空調機、換気機器、汎用インターフェース (PAC-YG66DC) のグループを選択できます。

※1つの連動条件では、連動先機器では異なる種類のグループ (空調機、換気機器、汎用インターフェース (PAC-YG66DC)) を同時に選択しないで下さい。

※空調グループの場合は、機種によって使用できない設定 (運転モード、設定温度範囲、風向、風速) があります。連動動作設定の際は、空調グループで利用できる設定内容を使用してください。空調機の運転可能な設定温度範囲外で使用した場合、空調機の故障になることがあります。

(3-1) 連動先種別がグループの場合の動作設定

連動先動作の設定をクリックすることにより、連動先動作設定画面が表示されます。

イベント発生時の連動先を設定してください。



※運転モードが未選択状態の時は、設定温度を設定することはできません。

※連動先機器の選択で選択されたグループでは使用できない運転モードを設定した場合は、そのグループに対しては運転モード以外の操作項目を含め一切の動作を行いません。

※設定温度は空調機の機種によっては設定できない温度範囲でも設定できる場合があります。空調機の機種によって許容される設定温度範囲で設定してください。もし、許容範囲外の温度を設定した場合、空調機の故障になることがあります。

※風向のスイング・自動、風速の自動については空調機の機種によって使用できない場合は出力されません。風向、風速については上記以外でも機種によって設定段数が異なる場合は設定できる範囲にて出力する場合があります。

※K制御機種では、リモコン操作禁止を1種類でも操作禁止にした場合、全項目操作禁止となります。

- (3-2) 連動先種別がフリー接点の場合の動作設定
連動動作画面のONまたはOFFを選択してください。

- (4) 連動先機器を設定します。

連動先機器の選択をクリックすると、表 7-2 の選択単位によって以下の連動先機器設定画面が表示されます。

- (4-1) 選択単位がグループの場合

登録したいユニット番号をクリックし、選択状態（黄緑色表示）にします。接続を解除したい場合は、再度クリックすることで非選択状態（灰色表示）に戻ります。

ブロック単位で空調機を登録したい場合は、[ブロック選択]をクリックするとブロック選択画面が表示されます。次に登録したいブロックを選択することによりそのブロックに登録されている空調機が選択状態（黄緑色表示）になります。

[選択解除]をクリックすることにより選択されているグループがすべて未選択になります。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラーが正常に接続されている状態で行ってください。

- (4-2) 選択単位がユニットの場合

登録したい汎用機器が接続されてる室内機のアドレス番号をクリックして選択状態（赤枠表示）にし、汎用機器が接続されている接点番号を選択します。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。また、設定は拡張コントローラーが正常に接続されている状態で行ってください。

7-3-2 連動条件単位で有効／無効を設定する

設定した条件を個別に実行を停止したい場合は、有効／無効選択をクリックすることにより、該当する番号の条件の有効／無効を切替えます。

無効を選択した番号の連動制御は実行されません。

7-3-3 連動制御を一時停止する

連動制御を一時停止させたい場合は、「制御を停止する」を選択します。停止した場合は連動制御されません。実行する場合は、「制御を実行する」をクリックします。

※連動制御を[制御を停止する]設定を行い、連動制御を停止している間に発生した状態変化は無視されます。

7-3-4 連動条件単位で条件編集を行う

編集ボタン（全行削除、1行挿入、1行削除、表示クリア、コピー、貼り付け）を使用することにより、条件を行単位で編集できます。

ボタン名	機能
全行削除	すべての設定を削除します
1行挿入	現在表示されている行の直前に1行未設定行を挿入し、以降の行を1行繰り下げます。 最終行に条件が設定されている場合は挿入は行えません。
1行削除	現在表示されている行を削除し、以降の行を1行繰り上げます。
表示クリア	現在表示されている行の設定をクリアし、全項目未設定にします。
コピー	コピーしたい行でコピーをクリックし、コピー先の行で貼り付けをクリックすることにより、行のコピーが行えます。
貼り付け	

8 換気設定

8-1 24時間換気を設定する

24時間換気設定を利用したい場合は、メニューの[換気設定]→[24時間換気設定]をクリックして24時間換気設定画面を開きます。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。

※24時間換気機能がある換気機器（ロスナイ）グループのみ表示されます。

※外部入力によるレベル運転中は、24時間換気運転しません。

※拡張コントローラーを接続してG-150ADを複数接続する場合は、いずれか1台で本設定を行ってください。

お願い

拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時、設定は拡張コントローラーを正常に接続している状態で行ってください。
拡張コントローラーと正常に接続していない状態で設定した場合、その拡張コントローラーの24時間換気は設定されません。



一括設定
全グループを一括して設定します

拡張コントローラー系統選択部
設定する系統を選択します

24時間換気設定
24時間換気設定の有効/無効を設定します

設定保存ボタン
G-150ADへ設定内容を送信します

グループ番号・グループ名
グループ番号、グループ名が表示されます

更新ボタン
G-150ADから設定内容を読み込みます

(1) [24時間換気設定]部で、有効/無効を選択します。

※全てのグループを一括して設定したい場合は、[一括設定]ボタンをクリックし、有効/無効を選択します。

(2) 全ての設定が完了したら、設定保存ボタンをクリックしてG-150ADに設定内容を送信します。

※24時間換気を有効にした場合、ユニットの24時間換気運転が有効になり、G-150ADの操作画面で24時間換気ボタンが表示されます。

※手元リモコンから設定変更された場合、G-150ADの設定も変更されます。

お願い

ロスナイが運転時に設定を無効にしないでください。
無効に設定したグループは、設定保存時にロスナイは停止します。

8-2 ナイトパーズを設定する

ナイトパーズを利用したい場合は、メニューの[換気設定]→[ナイトパーズ設定]をクリックしてナイトパーズ設定画面を開き、各種ナイトパーズ設定を行います。

この設定を行うことで、外気温度の低い夜間に、外気を取り入れ、室内の空気を排出することで翌日の冷房の立ち上がり時の冷房負荷を軽減することができます。

※拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時は、[拡張コントローラー系統選択部]で系統を選択し、各系統ごとに設定を行ってください。

※ナイトパーズ機能がある換気機器（ロスナイ）グループのみ表示されます。

※ナイトパーズ運転中は、普通換気で運転します。

※外部入力によるレベル運転中は、ナイトパーズ運転しません。

※ナイトパーズ時間帯にスケジュールが設定されている場合、スケジュールが優先されます。

※拡張コントローラーを接続してG-150ADを複数接続する場合は、いずれか1台で本設定を行ってください。

お願い 拡張コントローラー（PAC-YG50EC）接続時、設定は拡張コントローラーを正常に接続している状態で行ってください。
拡張コントローラーと正常に接続していない状態で設定した場合、その拡張コントローラーのナイトパーズは設定されません。

一括設定
全グループ一括して設定します

拡張コントローラー系統選択部
設定する系統を選択します

設定内容表示
設定内容を表示します

設定保存ボタン
G-150AD およびロスナイへ設定内容を送信します

更新ボタン
G-150AD から設定内容を読み込みます

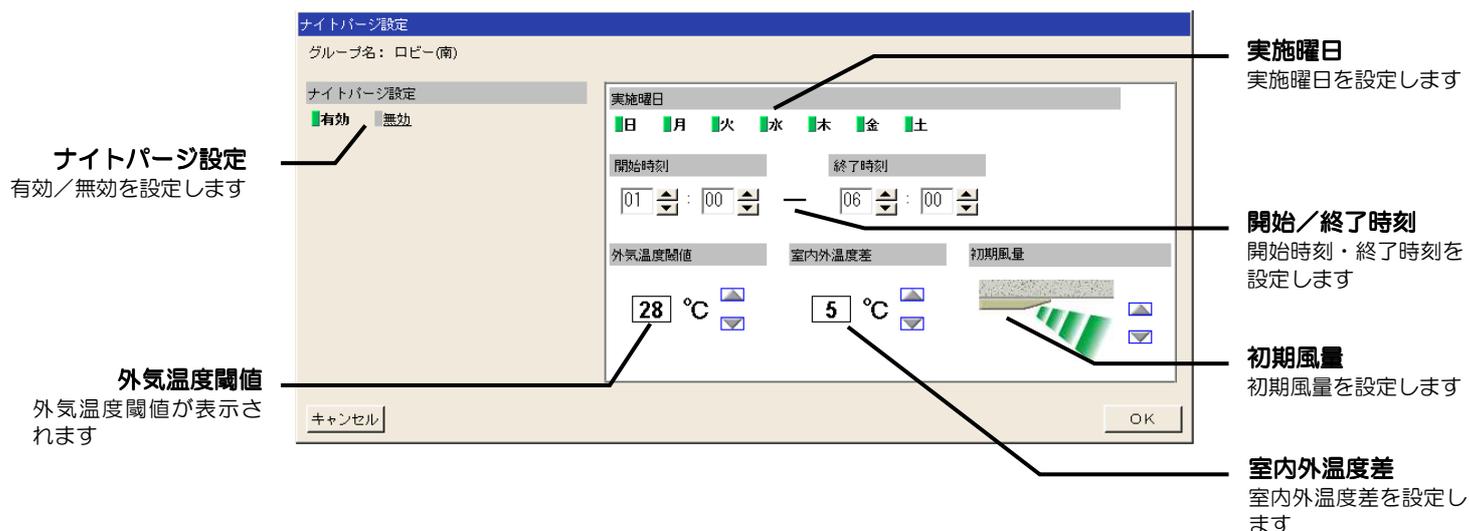
ナイトパーズ設定
有効/無効が表示されます

グループ番号・グループ名
グループ番号、グループ名が表示されます

グループ名	有効/無効	設定内容
11 エントランス	有効	月 28℃ 火 28℃ 水 5℃ 木 5℃ 金 01:00 - 06:00
12 ロビー(南)	有効	月 28℃ 火 28℃ 水 5℃ 木 5℃ 金 01:00 - 06:00
13 ロビー(東)	無効	月 25℃ 火 25℃ 水 4℃ 木 4℃ 金 01:00 - 06:00
14 ロビー(中央)	無効	月 25℃ 火 25℃ 水 4℃ 木 4℃ 金 01:00 - 06:00

※全てのグループを一括して設定したい場合は、[一括設定]ボタンをクリックし、設定内容を入力します。

(1)設定内容表示部をクリックすると、内容を設定する画面が表示されます。



(2)ナイトパーシ設定で有効/無効を選択します。

(3)ナイトパーシを実施する曜日を選択します。

開始時刻の曜日を実施曜日としてください。例えば、開始時刻を 23:00、終了時刻を 6:00 とした場合、実施曜日を「月」とすると月曜日の 23:00 に開始し、火曜日の 6:00 に終了します。

(4)ナイトパーシの開始時刻/終了時刻を設定します。

(5)外気温度閾値を設定します。外気温度閾値の設定温度範囲は、「15℃～30℃」です。

(6)室内外温度差を設定します。室内外温度差の設定温度範囲は、「0℃～7℃」です。

外気温度閾値と室内外温度差は、ナイトパーシが動作する条件の外気温度と室内と室外の温度差を設定します。上記画面例では、現在時刻が開始時刻 AM1:00 から終了時刻 AM6:00 までの間にあり、“過去”24 時間以内にロスナイが外気温度閾値 28℃（設定値）以上を検知した場合、かつ、現在の室内温度が 22℃より高い場合、（室内温度－室外温度）が室内外温度差 5℃（設定値）より大きい場合、ナイトパーシ運転を行います。（室内温度、室外温度は、ロスナイが検知した値です）

例、室内温度 27℃、室外温度 21℃の場合、ナイトパーシ運転。

室内温度 25℃、室外温度 21℃の場合、ナイトパーシ停止。

(7)ナイトパーシ運転中の初期風量を設定します。

※自動あり機種でも自動は表示されません。

※風量 1 段機種の場合、風量は表示されません。

(8) [OK] ボタンをクリックして元の画面に戻ります。

(9) 設定内容入力後、設定保存ボタンをクリックして G-150AD に設定内容を送信します。

※手元リモコンから設定変更された場合、G-150AD の設定も変更されます。

お願い

ロスナイ、および加湿加熱付ロスナイが運転時に設定を無効にしないでください。
無効に設定したグループは、設定保存時にロスナイ、および加湿加熱付ロスナイはナイトパーシ運転を終了します。

9 ユーザー設定

管理者ユーザーの利用可能な機能を制限したり、メンテナンスユーザー、管理者ユーザーのユーザー名、パスワードを変更したい場合、メニューの[ユーザー設定]をクリックしてユーザー設定画面を開き、各種ユーザー設定を行います。

テナントの入れ替えに伴ったグループ名称の変更等は管理者に運用してもらいたいが、空調機の接続情報などシステムの基本設定情報は変更されたくない場合などに、このユーザー設定をご利用ください。また、管理者ユーザーがユーザー名、パスワードを忘れてしまった場合にも、メンテナンスユーザーでログインし、再設定することが可能です。

メンテナンスユーザー名、パスワード
ユーザー名、パスワードを変更できます

管理者ユーザー名、パスワード
ユーザー名、パスワードを変更できます

利用可能な機能
ビル管理者が利用可能な機能を選択します

更新ボタン
G-150AD から設定内容を読み込みます

設定保存ボタン
G-150AD および室外ユニットへ設定

- (1)メンテナンスユーザーのユーザー名、またはパスワードを変更したい場合、メンテナンスユーザーの[ユーザー名][新パスワード][新パスワード再入力]欄に新たな内容を入力します。

※管理者ユーザーでログインしている場合、メンテナンスユーザーのユーザー名、パスワードは空白表示となり、変更できません。

<p>お願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● メンテナンスユーザーのユーザー名・パスワードを変更した場合、ユーザー名・パスワードを忘れないようお気を付けてください。忘れた場合、設定画面にログインできなくなります。万が一忘れてしまった場合は、お買い上げの販売店にお問合せください。
------------	--

- (2)管理者ユーザーのユーザー名、またはパスワードを変更したい場合、管理者ユーザーの[ユーザー名][新パスワード][新パスワード再入力]欄に新たな内容を記載します。

- (3)管理者の利用可能な機能を設定します。利用可能にしたい機能をクリックし、選択状態(黄緑色表示)にします。利用不可にしたい場合は、再度クリックすることで非選択状態(灰色表示)に戻ります。次ページに各機能項目と利用可能な機能の内容を記載します。

※管理者ユーザーでログインしている場合、現在の状況は確認できますが、変更はできません。

表 9-1 利用制限設定可能な機能一覧

機能		内容	
初期設定	現在日時設定	現在日時の設定	
	基本システム※ ¹	G-150AD のネットワーク設定, 外部入出力等の設定	
	グループ設定	グループ名称	グループ名称の設定
		グループ構成※ ¹	グループに所属する室内ユニット, 汎用機器, リモコン, システムコントローラの接続設定
	連動ロスナイ設定※ ¹	連動するロスナイの接続設定	
	ブロック設定	ブロック名称	ブロック名称の設定
ブロック構成※ ¹		ブロックに所属するグループの登録設定	
機能設定 1	メール設定※ ¹	異常メール通報先, メール通信相手等の設定	
	ピークカット設定	制御方法	各制御レベルの平均電力範囲, 制御無効差温, 室内ユニット, 室外ユニットの制御方法の設定
		システム構成※ ¹	PLC の初期化, PLC の設定内容
	ET 制御設定	ET 制御の設定	
	アドバンストパワーセーブ設定	アドバンストパワーセーブの設定	
	サーモ OFF 時送風設定	サーモ OFF 時送風制御の設定	
	計測設定	計測コントローラの接続設定, 警報メール設定	
機能設定 2	設定温度範囲制限	設定温度の操作範囲制限	
	ナイトモードスケジュール	ナイトモード時間帯の設定	
	オートチェンジオーバー	自動冷暖切換え機能の設定	
機能設定 3	外気温連動制御	外気温連動制御の設定	
	セットバック制御	セットバック制御の設定	
	連動制御	連動制御の設定	
換気設定	24 時間換気設定	24 時間換気の設定	
	ナイトパーシ設定	ナイトパーシの設定	

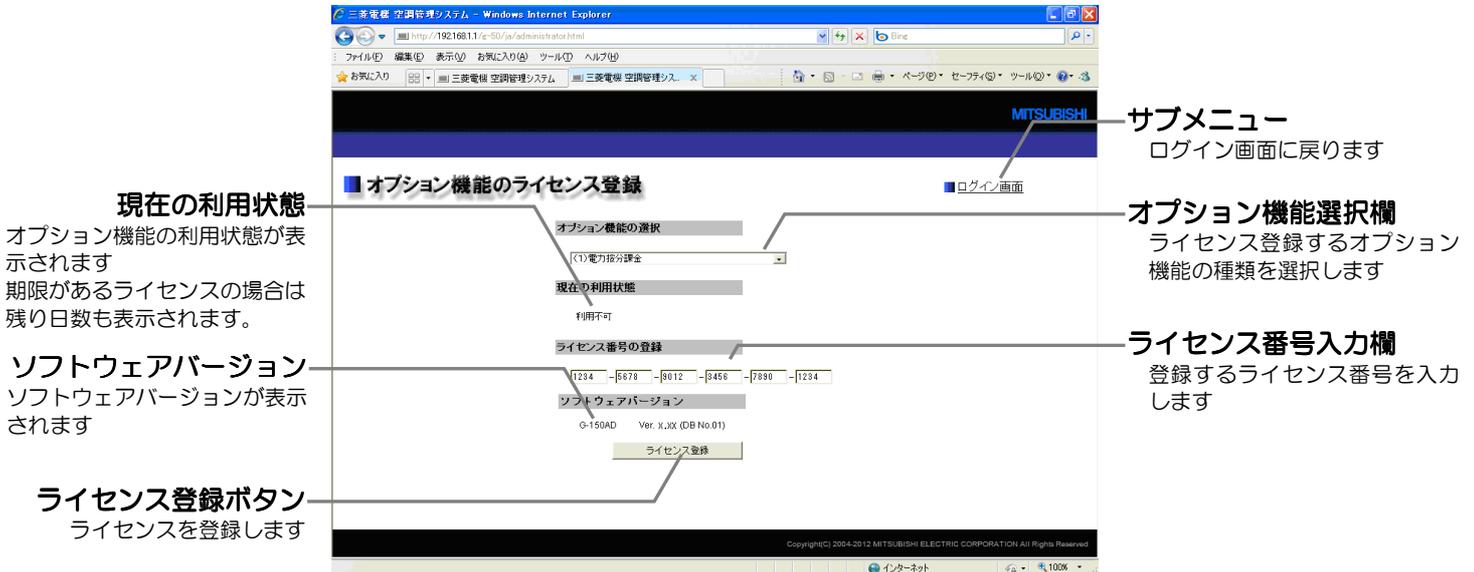
※¹ : 工場出荷時, 管理者ユーザーの操作は禁止となっております

(4) 設定内容入力後, 設定保存ボタンをクリックして G-150AD に設定内容を送信します。

10 オプション機能のライセンス登録

ここでは、オプション機能のライセンス登録方法について説明します。ログイン画面（3-1 参照）にて、[オプション機能のライセンス登録] をクリックすると、オプション機能のライセンス登録画面が表示されます。オプション機能の内容およびライセンス番号の購入方法は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

※拡張コントローラーを接続して G-150AD を複数接続する場合は、そのオプション機能を使用する G-150AD のみライセンス登録が必要になります。



(1) オプション機能のライセンス登録画面を開く

Web ブラウザのアドレス欄に Web ページアドレスを入力し、キーボードの[Enter](リターン)キーを押すと、ログイン画面が表示されます（3-1 参照）。

この画面で[オプション機能のライセンス登録]をクリックすると、オプション機能のライセンス登録画面が開きます。

オプション機能のライセンス登録



(2) オプション機能のライセンス登録を行う

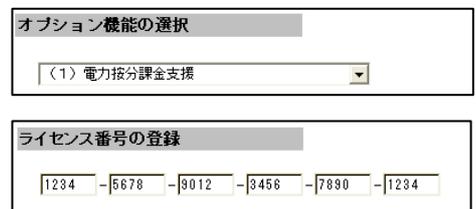
オプション機能のライセンス登録画面のオプション機能選択欄から、ライセンス登録したい機能を選択します。機能を選択すると現在の利用状態が表示されます。

次に、購入したライセンス番号を入力し、[ライセンス登録] ボタンをクリックすると、ライセンスが登録されオプション機能が利用できるようになります。

正常に登録できない場合は、ライセンス番号が間違えていないか、ライセンス登録するオプション機能を正しく選択しているか、また、G-150AD 本体の現在日時が正しく設定されているかを確認してください。

※ライセンス番号はアルファベットの「O」や「I」は使用していません。

※ライセンス登録を行ったあと、必ず登録したライセンスの利用状態が「利用可能」と表示されていることを確認して下さい。



三菱電機株式会社

冷熱システム製作所 〒640-8686 和歌山市手平 6-5-66 (073)436-2111